



Hewlett Packard
Enterprise

HP Insight Control 7.5 Update 1 リ リースノート

摘要

このドキュメントでは、HP Insight Controlのリリース内容について説明し、制限事項、重要/軽度な問題とその推奨処置に関する情報を提供します。

部品番号: 538301-599
2016年5月
第1版

© Copyright 2007, 2016 Hewlett Packard Enterprise Development Company LP

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ（Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items）は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

商標

Microsoft®および Windows® は、Microsoft Corporation の商標です。

VMware® は、VMware Inc.の登録商標です。

Red Hat® は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の商標または登録商標です。

Linux® は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Java および Oracle は、Oracle および/またはその関連会社の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

すべての HP 9000 コンピューター上の HP-UX Release 10.20 以降および HP-UX Release 11.00 以降（32 ビット構成および 64 ビット構成）は、Open Group UNIX 95 ブランドの製品です。

Intel® および Itanium® は、インテルコーポレーションまたはその子会社のアメリカ合衆国およびその他の国における商標または登録商標です。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

目次

1 Insight Control 7.5 Update 1 リリースノート.....	4
説明.....	4
アップデートの推奨事項.....	4
置き換えられるバージョン.....	4
オペレーティングシステムおよびデバイス.....	4
拡張機能.....	4
HP Insight Control 7.5 Update 1.....	4
HP Insight Control パフォーマンス管理.....	5
HP Insight Control 電力管理.....	5
HP Insight Control サーバー移行.....	6
HP Insight Control サーバードプロビジョニング.....	7
HP Insight Control 仮想マシン管理.....	9
前提条件.....	9
問題と推奨処置.....	10
HP Insight Control 電力管理.....	10
制限事項.....	10
重要な問題.....	11
軽度な問題.....	12
HP Insight Control サーバー移行.....	14
制限事項.....	14
重要な問題.....	15
軽度な問題.....	18
HP Insight Control サーバードプロビジョニング.....	20
制限事項.....	20
重要な問題.....	23
軽度な問題.....	26
ドキュメントに関する問題.....	27
HP Insight Control 仮想マシン管理.....	28
制限事項.....	28
重要な問題.....	33
軽度な問題.....	37
HP Insight Control パフォーマンス管理.....	41
制限事項.....	41
重要な問題.....	42
軽度な問題.....	42
Insight managed system setup wizard.....	44
制限事項.....	44
重要な問題.....	45
2 ドキュメントに関する注意事項.....	46
補足情報.....	46
3 サポートと他のリソース.....	47
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	47
アップデートへのアクセス.....	47
Web サイト.....	48
カスタマーセルフリペア.....	48
リモートサポート（HPE 通報サービス）.....	48

1 Insight Control 7.5 Update 1 リリースノート

HP Insight Control 7.5 Update 1 リリースノートでは、機能拡張、制限事項、および重要/軽度な問題とその推奨処置について説明します。「ドキュメントに関する注意事項」(46 ページ)の章では、HP Insight Control のドキュメントの補足情報を提供します。

説明

HP Insight Control は、HP ProLiant サーバーをプロビジョニング、管理、制御、および最適化するために設計されたサーバー管理ソフトウェアです。

Insight Control について詳しくは、Web サイト <http://www.hpe.com/jp/insightcontrol> を参照してください。

アップデートの推奨事項

7.3、7.3.x、7.4.x、または 7.5 の各バージョンを実行しているお客様は、バージョン 7.5 Update 1 にアップグレードすることをお勧めします。

置き換えられるバージョン

なし

オペレーティングシステムおよびデバイス

このリリースは、『HP Insight Management サポートマトリックス』に掲載されているオペレーティングシステムとデバイスをサポートします。

拡張機能

この項では、HP Insight Control ソフトウェアの機能強化について説明します。

HP Insight Control 7.5 Update 1

以下の項では、このリリースで利用可能な新しい機能を、HP Insight Control の機能または機能領域ごとにまとめて示しています。

『HP Insight Management サポートマトリックス』には、Insight Control 7.5 Update 1 のインストールおよび実行のためのハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの最小要件、ならびにすでにサポートされているオペレーティングシステム、ハイパーバイザー、OS 以外のソフトウェアの最新リビジョンのリストが掲載されています。また、今回のリリースで新たにサポートされたハードウェアのリストも掲載されています。サポートされていないソフトウェアおよびハードウェアについても記録されています。『HP Insight Management サポートマトリックス』は、[Hewlett Packard Enterprise Information Library](#) にあります。

注記: Insight Management 7.5 Update 1 リリースは、HP Insight Control サーバープロビジョニング 7.5.1 リリースの使用をサポートします。HP Insight Control サーバープロビジョニング 7.5.1 リリースの情報については、『HP Insight Control リリースノート』および『HP Insight Management サポートマトリックス』を参照してください。

次の項では、Insight Control コンポーネントの新機能、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステム、およびハイパーバイザーのサポートを示します。

- **新しい CMS/ハイパーバイザーソフトウェアのサポート**
 - VMware vSphere 5.5 Update 3a
 - VMware vSphere 5.5 Update 3b
 - VMware vSphere 6.0 Update 1a
 - VMware vSphere 6.0 Update 1b
- **新しい管理対象ノードのサポート**

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12.1
VMware vSphere 6.0 Update 2
KVM on Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2
KVM on Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7

- **新しいブラウザーサポート**
Google Chrome 47.0

HP Insight Control パフォーマンス管理

このリリースでは、HP Insight Control パフォーマンス管理は次のものをサポートします。

- **新しいソフトウェアサポート**
HP Service Pack for ProLiant 2016.04.0
Microsoft SQL Server 2014 SP 1
- **新しい管理対象ノードのサポート**
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12.1
VMware vSphere 6.0 Update 2
VMware vSphere 5.5 Update 3a
VMware vSphere 5.5 Update 3b
VMware vSphere 6.0 Update 1a
VMware vSphere 6.0 Update 1b
- **新しい CMS ソフトウェアサポート**
VMware vSphere 5.5 Update 3a
VMware vSphere 5.5 Update 3b
VMware vSphere 6.0 Update 1a
VMware vSphere 6.0 Update 1b
- **新しいブラウザーサポート**
IE タブ拡張付き Google Chrome 47.0

HP Insight Control 電力管理

このリリースでは、HP Insight Control 電力管理は次のものをサポートします。

- **新しい電源装置 (ラックおよび電源、エンクロージャー)**
HP 900W AC 240VDC 冗長電源装置キット
- **新しい管理対象ノードのサポート**
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2
KVM on Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12.1
VMware vSphere 6.0 Update 2
VMware vSphere 5.5 Update 3a
VMware vSphere 5.5 Update 3b
VMware vSphere 6.0 Update 1a
VMware vSphere 6.0 Update 1b
HP-UX 1603
- **新しいソフトウェアサポート**
HP iLO 4 バージョン 2.40
Microsoft SQL Server 2014 SP 1

- **新しい CMS ソフトウェアサポート**
VMware vSphere 5.5 Update 3a
VMware vSphere 5.5 Update 3b
VMware vSphere 6.0 Update 1a
VMware vSphere 6.0 Update 1b
- **新しいブラウザーサポート**
IE タブ拡張付き Google Chrome 47.0

HP Insight Control サーバー移行

このリリースでは、HP Insight Control サーバー移行は次のものをサポートします。

- **新しいサーバーサポート**
Just Bunch Of Disk (JBOD) による HP D6020 Large Form Factor (LFF)
HP Synergy 10/40 GB パススルーモジュール
- **新しいソフトウェアサポート**
HP iLO 4 バージョン 2.40
Onboard Administrator 4.50
HP Intelligent Provisioning v1.62 (b) for Gen8
HP Intelligent Provisioning v2.40
HP Smart Update Manager (HP SUM) バージョン 7.5.1
Network Controller Driver Ethernet (NCDE) 11.40
HP Service Pack for ProLiant 2016.04.0
Microsoft SQL Server 2014 SP 1
- **新しい管理対象ノードのサポート**
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12.1
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP4
VMware vSphere 5.5 Update 3a
VMware vSphere 5.5 Update 3b
VMware vSphere 6.0 Update 1a
VMware vSphere 6.0 Update 1b
VMware vSphere 6.0 Update 2
- **新しい NIC カードサポート**
HP FlexFabric 10Gb 2 ポート 533FLR-T アダプター
HP StoreFabric CN1200E-T Adapter
HP StoreFabric CN1100R 10G BASE-T Converged Network Adapter
- **新しいストレージサポート**
HP 3PAR StoreServ 7000 および 10000 FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.2.2
HP 3PAR StoreServ 7000 および 10000 FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.2.2 MU2
HP 3PAR StoreServ 8000 および 20000 FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.2.2 MU2
HP 3PAR StoreServ 7000 および 10000 FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.1.3 MU3
HP 3PAR OS 3.1.3 MU3 (F クラス、T クラス、FC および iSCSI)
StoreServ 7000 および 10000 FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.2.1 MU5
StoreServ 7000 および 10000 FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.2.2 MU3
StoreServ 8000 および 20000 FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.2.2 MU3
- **新しいブラウザーサポート**
Google Chrome 47.0

HP Insight Control サーバードプロビジョニング

このリリースでは、HP Insight Control サーバードプロビジョニングは次のものをサポートしません。

- **新しいオペレーティングシステムのサポート**

- Ubuntu 14.04
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12 SP 1
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP 4
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2

- **新しいソフトウェアサポート**

- HP Smart Update Manager (HP SUM) バージョン 7.5.1
- HP iLO 4 バージョン 2.40
- HP Intelligent Provisioning v2.40
- HP Service Pack for ProLiant 2016.04.0
- Network Controller Driver Ethernet (NCDE) 11.40
- HP Smart Update Tool (HP SUT) バージョン 1.0.0

- **新しい管理対象ノードのサポート**

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12 SP 1
- KVM on Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7
- KVM on Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7
- Ubuntu 14.04

- **新しいハイパーバイザーのサポート**

- VMware vSphere 5.5 Update 3a
- VMware vSphere 5.5 Update 3b
- VMware vSphere 6.0 Update 1a
- VMware vSphere 6.0 Update 1b
- VMware vSphere 6.0 Update 2
- KVM on Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2
- KVM on Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7

- **アプライアンスをホストするための新しいサポート**

- VMware vSphere (ESXi) 6.0 Update 2
- VMware vSphere (ESXi) 5.5 Update 3

- **新しいストレージサポート**

- HP 3PAR StoreServ 8000 および 20000 FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.2.2
- HP 3PAR StoreServ 7000 および 10000 FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.2.1 MU4
- HP 3PAR StoreServ 7000 および 10000FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.2.2 MU2
- HP 3PAR StoreServ 8000 および 20000FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.2.2 MU2
- HP StoreFabric SN1100Q 16Gb 2P FC HBA
- HP StoreFabric 84Q 4P 8Gb ファイバーチャネル HBA
- HP 3PAR StoreServ 7000 および 10000FC および iSCSI 上の HP 3PAR OS 3.1.3 MU3
- HP 3PAR OS 3.1.3 MU3 (F クラス、T クラス、FC および iSCSI)

- **新しいブラウザーサポート**

- Google Chrome 47.0
- Google Chrome 48.0

- **新しい NIC カードサポート**

HP FlexFabric 10Gb 2 ポート 556FLR-T アダプター
HP FlexFabric 10Gb 2 ポート 533FLR-T アダプター
HP StoreFabric CN1200E-T Adapter
HP StoreFabric CN1100R-T Dual Port CNA

- **新しい SD カードサポート**

HP デュアル 8 GB microSD USB キット (SKU - 741279-B21)
HP 8 GB SD Enterprise Mainstream Flash Media Kit (SKU - 726116-B21)
HP 8 GB USB Enterprise Mainstream Flash Media Drive Key Kit (SKU - 737953-B21)
HP 32 GB microSD Enterprise Mainstream Flash Media Kit (700139-B21) (Windows ではこのカードはサポートされていません)

- **新しい OS ビルドプラン機能**

ProLiant COMBO - BFS + RHEL 7.2 + SPP
ProLiant OS - ESXi 5.5 U3 Scripted Install
ProLiant OS - ESXi 6.0 U1 Scripted Install
ProLiant OS - ESXi 6.0 U2 Scripted Install
ProLiant OS - RHEL 6.7 x64 Scripted Install
ProLiant OS - RHEL 6.7 x64 KVM Scripted Install
ProLiant OS - RHEL 7.2 x64 Scripted Install
ProLiant OS - RHEL 7.2 x64 KVM Scripted Install
ProLiant OS - SLES 11 SP 4 x64 Scripted Install
ProLiant OS - SLES 12 SP 1 x64 Scripted Install
ProLiant OS - Ubuntu 14.04 x64 Scripted Install
ProLiant SW - Configure NIC Teaming for RHEL 7
ProLiant SW - Configure Multiple NIC Team for Windows
ProLiant SW - Install Linux HPSUT
ProLiant SW - Install Windows HPSUT

- **新しいユーザー機能**

- **NIC チーミング**

7.5.1 リリース以降では、HP Insight Control サーバードプロビジョニングは RHEL Linux および Windows の両方で、カスタマイズスクリプトによる NIC チーミングをサポートします。RHEL と Windows の両方で別のスクリプトが使用できます。NIC チームに対するさまざまな構成モードも提供しています。

ProLiant SW — Configure NIC Teaming for RHEL 7 ビルドプランは、RHEL 7 の NIC チーミングを有効にします。**ProLiant SW — Configure Multiple NIC Team for Windows** ビルドプランは、Windows の複数の NIC チームを有効にします。

これらのビルドプランの詳細および使用方法については、『HPE Insight Control サーバードプロビジョニングビルドプランリファレンスガイド』を参照してください。

- **HP Smart Update Tool (SUT) の展開**

7.5.1 リリース以降では、HP SUT を RHEL Linux および Windows の両方に展開できます。HP SUT は、オペレーティングシステムの認証情報を必要とすることなく iLO 管理ネットワークを介してオンラインファームウェアやドライバーの更新を実行する機能を提供する、OneView のためのオペレーティングシステムユーティリティです。Windows および Linux では、HP Smart Update Tool により適切な優先順位付けが行われ、ユーザーの利便性向上のためリブートを最小限に抑えます。

ProLiant SW - Install Linux HPSUT および **ProLiant SW - Install Windows HPSUT** ビルドプランをそれぞれ使用して、Linux および Windows 管理対象ノード用の HP

SUTを展開します。詳細は、『HPE Insight Control サーバードプロビジョニングビルドプランリファレンスガイド』を参照してください。

- **Linux Combo ビルドプランを RHEL 7.2 用に更新**

Linux Combo ビルドプランが、RHEL 7.2 を使用するために更新され、ProLiant COMBO - BFS + RHEL 7.2 + SPP と呼ばれます。前のサンプル ProLiant COMBO - BFS + RHEL 7.1 + SPP は、アプライアンスの更新の一環として削除されます。

HP Insight Control 仮想マシン管理

このリリースでは、HP Insight Control 仮想マシン管理は次のものをサポートします。

- **新しい CMS ソフトウェアサポート**

VMware vSphere 5.5 Update 3a
VMware vSphere 5.5 Update 3b
VMware vSphere 6.0 Update 1a
VMware vSphere 6.0 Update 1b
Microsoft SQL Server 2014 SP 1

- **新しい管理対象ノードのサポート**

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.2
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12.1

- **新しいブラウザーサポート**

IE タブ拡張付き Google Chrome 47.0

- **新しいハイパーバイザーのサポート**

VMware vSphere 6.0 Update 2

- **新しい機能**

複数の CMS での Microsoft SCVMM サーバーを管理するサポート
仮想マシン管理での ESXi/Hyper-V のための複数の DNS サフィックスのサポート
Hyper-V 静的 MAC アドレスのサポート
Hyper-V ホットディスクのサポート
ESXi ホットプラグ対応ディスク (SAS および SATA) のサポート
ESXi ディスクコントローラー設定のサポート
ESXi ネットワークコントローラー設定のサポート
VMware Virtual SAN のサポート
VMware Virtual Volume (VVol) のサポート
ESXi 上の IDE コントローラーのサポート

前提条件

- 今回のリリースに関するハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェア要件のリストについては、『HP Insight Management サポートマトリックス』を参照してください。
- インストールとアップグレードの前提条件については、『HP Insight Management サポートマトリックス』を参照してください。
- 廃止されたハードウェアとソフトウェアは、『HP Insight Management サポートマトリックス』に示されています。

これらのドキュメントは、『[HP Enterprise Information Library](#)』から入手できます。

問題と推奨処置

以下では、このリリースの問題と制限事項について、HP Insight Control 製品または機能領域別にリストします。以下のカテゴリが使用されます。製品領域に制限事項や問題がない場合、そのカテゴリは記載されていません。

制限事項 このリリースで実装されている機能の制限事項。

重要な問題 このリリースの機能および操作性に著しく影響する可能性のある問題。

軽度な問題 確認できるものの、機能または操作性に著しい影響は及ぼさない問題。

HP Insight Control 電力管理

制限事項

- **日本語の電力/温度データ（グラフ）ページが [範囲間隔] オプションで表示されない**
日本語のオペレーティングシステム上に CMS がある環境では、電力/温度グラフが [範囲間隔] オプションを表示しないことが確認されています。これは、CMS またはブラウザの日付形式が無効であることが原因です。
- **iPDU で IPv6 がサポートされないことによる IC Power の制限**
iPDU では IPv6 がサポートされないため、IPv6 で接続している場合は、IC 電力管理に関して次の制限があります。
iPDU が IPv6 アドレスのみで構成されている場合、Intelligent Power 検出機能はサポートされません。
 - iPDU、その負荷セグメント、およびコンセントが表示されません。これらの電源供給デバイスの電源情報およびレポートは利用できません。
 - iPDU コンセントの電源の有効/無効化はサポートされません。
 - iPDU の UID LED の電源投入と切断はサポートされません。

推奨処置

iPDU が IPv6 アドレスで検出されても、次の電力管理機能を使用できますが、**デバイスが iPDU に接続されている場合は、デバイス（以下に示しています）を手動で検出する必要があります。**

1. ラック内のラック、システム/デバイスのレイアウトの視覚化。
2. ラック、システム/デバイス、および C-Class エンクロージャーの電源情報の表示。
3. システム（サーバー/エンクロージャー）のレポート/エクスポートレポートの表示。
4. 消費電力上限の設定、パワーレギュレーターモードの変更、システム（サーバー/エンクロージャー）の電源/温度データの更新。

注記: 次の例外を除いて、すべての機能がサポートされます。

- ProLiant 100 の電源操作はサポートされません。
 - SL シリーズサーバーのシャーシノードの関連付けはサポートされません。
 - IPv6 のみのホストで Local VM を適切にシャットダウンすることはサポートされません。
 - iPDU が IPv6 アドレスのみで構成されている場合、Intelligent Power 検出機能はサポートされません。
-
- **Data Center Power Control (DCPC) はシステムのプライマリアドレスでのみ動作する**
DCPC はシステムのプライマリアドレスでのみ動作します。プライマリアドレス以外のシステムを検出することはできません。

推奨処置

DCPC でルールを作成するときに、ターゲットノードのプライマリ IP アドレスを指定します。

- **電力供給デバイスは、解決可能な他のホスト名と競合する名前を使用してはならない**

電力供給デバイスは、データセンター内にある、IP アドレスに解決可能な他のホスト名と競合する名前（またはホスト名）を使用できません（その名前が HP SIM で検出されるかどうかを問いません）。電力供給デバイスが解決可能なホスト名で作成された場合は、HP SIM はこの IP アドレスで検出を開始します。その場合、電力供給デバイスを表示しようと試みる電力管理分析ビューに次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
Circuit {Name} does not exist.
```

推奨処置

この状況を修正するには、以下を実行して、**{Name}** のシステムタイプを修正して電力供給デバイスにする必要があります。

1. Systems Insight Manager の検索ボックスに、**{Name}** と入力して **{Name}** の [システム] ページを見つけ、**{Name}** へのリンクをクリックします。
2. **[ツール & リンク]** タブをクリックします。
3. **[システムプロパティの編集]** リンクをクリックします。
4. **システムタイプ**：オプションを**電力供給デバイス**に変更します。
5. **[検出、識別、データ収集プロセスがこれらのシステムプロパティを変更しない]** がチェックされていることを確認します。
6. **[OK]** をクリックします。

- **Internet Explorer 7 と Adobe Flex 間の非互換性**

[ルールの定義] ページにシステム名でターゲットを入力するとき、システムが検出可能かどうかを判定するために HP Systems Insight Manager の左パネルにある検索ボックスをクリックし、データセンター電力制御のターゲットボックスをクリックして検出されるシステム名を入力します。テキストフィールドにアクセスできなくなります。

注記: この問題は、ProLiant システムのみに適用されます。

推奨処置

サポートされている別のブラウザを使用してください。

重要な問題

- **2つ以上の（複数の）サーバーが選択されていると、電力/温度ページの表示が不完全になる**

複数のサーバーまたはサーバーの集合を選択し、**[レポート]→[電力管理]→[電力/温度データの表示]**の操作を行って電力/温度のデータまたはグラフを表示しようとする、**[電力/温度データの表示]** ページ全体とグラフが表示されません。グラフの設定とグラフの一部が表示されるだけで、ページの残りの部分は空白です。

推奨処置

この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

1. ページの **[タブ]** をクリックするか、グラフを完全に表示するページを右クリックして保存します。
2. 電力管理操作を設定/管理するには、メニューオプションを使用してタスクを実行します。

または、[電力/温度データの表示] ページの [グラフ] タブを閉じて [電力管理アクション] タブを表示すると、[電力管理アクション] タブを展開して関連するすべての操作を実行できます。

- 「スケジュール済みタスク」のリストの下にパワーレギュレーターまたは消費電力上限に対するスケジュール済みタスクが表示されない、または編集できない

Insight Control 電力管理を使用してパワーレギュレーターまたは消費電力上限タスクをスケジュールリングした場合、Insight Control 電力管理の新しいバージョンに CMS をアップグレードした後、タスクが「スケジュール済みタスク」リストに表示されない場合があります。またはタスクを編集しようとするとき、エラーになる場合があります。

推奨処置

既存のパワーレギュレーターまたは消費電力上限タスクを削除し、新しいタスクをスケジュールリングします。

- 電力/温度グラフに、エラーメッセージや正しくないグラフが表示される

グラフの再表示やデータの更新を短時間に連続で何回も行うと、電力/温度グラフにエラーメッセージや正しくないグラフが表示されます。

推奨処置

グラフの再表示やデータの更新を、短時間に連続で何回も行わないでください。

軽度な問題

- ラックやデータセンターについて電力データの収集がすぐには発生しない

推奨処置

管理対象になっていないノードについての電力データ情報を受け取るには、次のいずれかの操作を実行します。

- [レポート]→[電力管理]→[電力履歴の計算]メニューオプションを使用して電力履歴を計算します。
- [電力/温度データの表示] ページで、[データの更新]をクリックして、管理対象外ノードのデータを更新します。

- データセンターまたはラックを構築/編集しているときに Web ブラウザーがクラッシュする

データセンターまたはラックを構築/編集しているときに Web ブラウザーがクラッシュします。Mozilla Firefox のクラッシュ情報ダイアログ (about:crashes) に、次の署名が含まれている場合があります。

Caused by a plugin: Shockwave Flash (npswf32.dll)

推奨処置

<http://www.get.adobe.com/flashplayer> からサポートされるバージョンの Adobe Flash プレイヤーをダウンロードし、インストールしてください。

- 強制的な方法でも正しい手順による方法でもホストおよびゲストをシャットダウンできない

VMware ESXi のいくつかのバージョンは SSH 機能をサポートしません。ゲストまたはホストを手動でシャットダウンする必要があります。

推奨処置

電力管理が VMware vCenter に完全に統合されるまで、ホストおよびゲストの電源をオン/オフできます。

- **複数のブラウザーインスタンスを開いて同じユーザーセッションを共有すると、表示されるシステム詳細が一致しない**

複数のブラウザーウィンドウを開いて異なるシステムを表示し、これらのブラウザーインスタンスが同じブラウザーセッションを共有している場合、一部のブラウザーインスタンスに表示されるシステム詳細データが一致しない場合があります。

推奨処置

一致しないシステム詳細を表示しているブラウザーウィンドウを更新します。別のブラウザーセッションを使用して、HP Systems Insight Manager を起動し、サインインします。

- Microsoft Internet Explorer 8 (IE8) の場合は、**[ファイル]**、**[新規セッション]**をクリックして新しいブラウザーセッションを開始します。
 - Mozilla Firefox の場合は、別々のプロファイルを使用して複数のブラウザーセッションを開始します。たとえば、`firefox.exe -no-remote -P profile_name` と入力します。
- **CMS と Onboard Administrator 間の時間差が 24 時間を超えると、グラフとレポートを表示できない**

CMS と管理対象ノード間の時間差が 24 時間を超えると、HP Insight Control 電力管理は、電力/使用量/温度のグラフを表示できません。ただし、データ収集ステータスは正常と報告されます。電力データは、管理対象ノードの時間に基づいて格納されます。

推奨処置

CMS と管理対象ノード上の日時がそれぞれのタイムゾーンと一致しない場合は、それぞれのタイムゾーンに合わせて日時を変更してください。

- **電力管理のアンインストールの直後、HP Systems Insight Manager が、インストールされている HP Insight Control 電力管理を認識しない場合がある**

HP-UX から HP Insight Control 電力管理をアンインストールすると、HP Systems Insight Manager が再起動されます。電力管理をアンインストールした直後にインストールすると、Systems Insight Manager が完全に再起動されていない場合、電力管理は正常にインストールされますが、電力管理がインストールされていることを Systems Insight Manager が認識しない場合があります。

推奨処置

電力管理をインストールする前に、`mxstatus` を使用して Systems Insight Manager が完全に再起動されていることを確認します。`mxstop` および `mxstart` オプションを使用して、インストール対象ツールをインストールします。

- **Crystal Reports : 日本語の場合、データセンタービュー内のラックが正しくない色で表示される**

これらのレポートの[データセンタービュー]ページには、列と行にデータセンター内の各ラックが表示されます。列と行は、そのラック内にある機器で記録された最高温度を示す色で表示されます。最高温度値もビューに表示されます。

日本語でレポートを実行すると、温度が色に反映されず、ランダムな色で表示されます。ただし日本語レポートでも、温度は正しい値で表示されます。

推奨処置

英語でレポートを実行するか、ラックの色は無視して、ラックに表示される温度値のみを参照するようにします。

- **Insight Control 電力管理で消費電力が実際より少なく報告され、電力の大幅低下が表示されることがある**

ラックやデータセンターの電力履歴を表示する際、電力/温度グラフに、消費電力が実際の使用量より少なく、段階的に大幅に低下しているかのように表示される場合があります。ただし、グラフ中の電力低下がすべて過小報告によるものではないため、すべての電力低下が誤りであると判断することはできません。

推奨処置

[**計算された電力履歴のクリア**]ツールを使って、ラック、データセンターなどの履歴を消去します。次に、[**電力履歴の計算**]を使用して電力の履歴データを集約しなおします。再集約が完了すると、電力/温度ページで修正された結果を確認できます。

HP Insight Control サーバー移行

制限事項

- **UEFI モードでの任意の Linux OS の X2V 移行がサポートされない**
- **Logical Volume Manager (LVM) を持つソースの X2V 移行**

X2V 移行中に、論理ボリューム管理を持つソースを移行し、ターゲット VM を自動ブートするとき、移行ウィザードのステップ 4 で、[未割り当て] フィールドに最小 40 MB を追加します。

- **Gen9 サーバーへの Linux の移行**

Intelligent Provisioning バージョン 2.40 を使用して Gen9 ターゲットサーバーへの Linux の移行を開始する前に、RPM パッケージをインストールする必要があります。

要件

移行前にインストールする必要がある RPM パッケージは次のとおりです。

- SLES の移行の場合：
 - `glibc` - 32 ビットモジュール
 - `libncurses` - 32 ビットモジュール
- RHEL の移行の場合：
 - `glibc` - 32 ビットモジュール
 - `ncurses-libs` - 32 ビットモジュール
- **API と CLI の制限事項/要件**

API の `migrateToProliant/migrateToVM` を使用する場合は、プライマリパーティションの移行だけがサポートされます。

要件

`migrateToVM` API の場合は、移行先で自動ブートオプションを使って移行を実行する際、`-targetVmName` は必須の引数です。

- **ソースサーバーでの移行前の要件**

1. EFI モードでターゲットサーバーに SLES 12 を移行する前に、ソースサーバーに `grub2_efi` パッケージをインストールする必要があります。

2. iSCSI ディスクで構成されているターゲットサーバーに SLES を移行する前には、ソースサーバーに open-iSCSI パッケージをインストールする必要があります。
- “、:、または\の文字を含むパスワードを使った、CMS からソースサーバーへのエージェントの起動はサポートされない
Windows ソースエージェントの展開では、“、:、または\の文字を含む管理者パスワードはサポートされません。

重要な問題

- **ブラウザーの言語が中国語に設定されている場合に、自動ブートでの X2V 移行が失敗する**
X2V 移行ウィザードのステップ 3 で自動起動（VM がサーバー移行ウィザードから自動的に作成される）を選択すると、“Type Error : Language is null” とポップアップに表示されて移行が失敗します。
推奨処置
移行前に、ブラウザーの言語を英語に設定します。すべてのブラウザーを閉じて、移行プロセスを再起動してください。
- **移行が正常に完了した後、RHEL バージョン 6.5、6.6、6.7 (x64) オペレーティングシステムが Smart アレイ P712 で起動しない**
RHEL バージョン 6.5 (x64) の移行が正常に完了した後、オペレーティングシステムが Smart アレイ P712 で起動しません。
推奨処置
`/boot/grub` の場所に配置された、ソースサーバーファイル `grub.conf` にあるブートパラメーター `intel_iommu = on` および `amd_iommu=on present` を削除して、移行を繰り返します。
- **P840ar コントローラー上での移行後に、SLES 12 および RHEL7.x を再起動してもオペレーティングシステムが起動しない**
P840ar コントローラー上で SLES 12 移行後環境を再起動しても、オペレーティングシステムが起動しません。
P840ar コントローラーを使用して構成された HP ProLiant XL420 Gen 9 サーバー上で、RHEL 7.x x64 OS を使用した X2P 移行を開始します。移行の成功後、カーネルパニックは P840ar コントローラーを搭載したターゲットサーバー上で識別されます。
推奨処置
移行後の再起動時に、カーネルパラメーター `modprobe.blacklist=hpdsa` を追加して起動を続行します。その後の起動用の恒久的なソリューションとして、`modprobe.blacklist=hpdsa` パラメーターを `grub.cfg` (grub config) ファイル (`/boot/grub2/grub.cfg` ディレクトリーにあります) に追加します。
- **移行ウィザードのステップ 5 とステップ 7 でコントローラー名が表示されない**
レガシーモードでは、以下のコントローラーについてコントローラー名が表示されません。
 - HP H244br Smart ホストバスアダプター
 - HP Smart アレイ P246br コントローラー
 - HP Smart アレイ P840ar コントローラー
 - HP Smart アレイ P440ar コントローラー
 - HP H240ar Smart ホストバスアダプター

- HP Smart アレイ P244br コントローラー
 - HP Smart アレイ P240nr コントローラー
 - UEFI モードで、HP Smart アレイ B140i コントローラー名が表示されない
- **コントローラー名が移行ウィザードに表示されない**

原因

原因は、次の点にあります。

1. HP Smart アレイ P246br または HP Smart アレイ P840i コントローラーでは、コントローラー名は表示されない。
2. HP Smart Storage Administrator (HP SSA) から変更を行った後、コントローラー名は移行ウィザードで検出されない。

P246br または P840i コントローラーおよび IP 2.10 を搭載したターゲットサーバーを準備します。論理ドライブは作成しないでください。ターゲット上で自動ブートを実行し、移行ウィザードのステップ 5 まで進みます。ディスクがウィザードで検出されていないことを確認します。ここで、ターゲットエージェントページから HP SSA を使用して論理ドライブを作成し、移行ウィザードページを更新します。HP SSA を使用して作成した論理ドライブが検出されるようになったことを確認します。ただし、移行ウィザードでは、コントローラー名は検出されません。

推奨処置

コントローラー名が表示されない場合でも、移行を継続できます。複数のコントローラーが存在する場合、混乱を避けるためにデバイス名を合わせます。たとえば、ウィザードに表示される /dev/sda とディスクサイズを、ターゲットの UI に表示されるものと合わせます。

- **T-Boot パッケージがインストールされた RHEL 6.5 および RHEL 6.6 (64 ビット版) の移行が成功した後、EFI モードの ESXi でオペレーティングシステムが起動しない**

EFI モードで構成されたターゲットの ESXi 上で、RHEL 6.5 および RHEL 6.6 (64 ビット版) の X2V 移行を起動します。移行が成功した後、ターゲットの ESXi でオペレーティングシステムが起動しません。

推奨処置

T-Boot パッケージがインストールされた EFI モードの RHEL 6.5 および RHEL 6.6 (64 ビット版) はサポートされていません。

- **EFI モードでの自動ブート後、B140i コントローラーでディスクが検出されない**

レガシモードのサーバーで EFI モードで自動ブートが実行されると、B140i コントローラーのウィザードのステップ 5 で自動ブートを実行した後に、ディスクが検出されません。

推奨処置

自動ブートを開始する前に、サーバーが EFI ブートモードに設定されていることを確認します。

- **SAN の移行後、ターゲットサーバーにデータが反映されない**

2 つのコントローラー (プライマリパーティションと拡張パーティションが別々のコントローラー上にある) を持つソースサーバーから 2 つのコントローラーを持つターゲットサーバーへの Linux OS の移行を開始します。

移行の成功後、OS はブートしますが、セカンダリコントローラー上のデータがターゲットサーバーに反映されない場合があります。

推奨処置

移行後にターゲットサーバーをブートする際に、セカンダリコントローラーのディスクをマウントしてみてください。

- **RHEL 6.6 OS のブート時にカーネルパニックが発生する**

RHEL 6.6 の移行時に、ソース OS が iSCSI ディスクにインストールされ、ターゲットサーバーがローカルのストレージコントローラーを備えている場合、移行後にターゲットサーバーをブートする際にカーネルパニックが発生することがあります。

推奨処置

grub メニューでの OS のブート中に、`iscsi_firmware` ブートパラメーターを削除し、ブートを続行します。その後のブート用の恒久的なソリューションとしては、`/boot/grub2/grub.cfg` (grub config) ファイルから、`iscsi_firmware` パラメーターを削除します。

- **移行ウィザードのステップ 5 で iSCSI ディスクとして構成された HP FlexFabric 10 Gb 2 ポート 554FLR-SFP+ アダプターを検出できない**

任意のサーバーから iSCSI ディスクとして構成された HP FlexFabric 10 Gb 2 ポート 554FLR-SFP+ アダプターを搭載する任意のサポートされる ProLiant Gen8 サーバーへ任意の OS の X2P 移行を開始し、ステップ 3 で自動ブートを開始すると、移行ウィザードのステップ 5 でアダプターが検出されず、次のエラーメッセージが表示されます。

HP Insight Control サーバー移行は、ターゲットサーバー上にディスクを見つけることができませんでした。

推奨処置

RBSU で IOMMU を無効にしてください。

- **ターゲットディスクで既存の論理ボリュームが消去されると、移行後にターゲットサーバーでオペレーティングシステムが起動に失敗する**

Insight Control サーバー移行を実行した後、ターゲットサーバーで OS が起動しないことがあります。この問題は、サーバーが再目的化され、次の条件が満たされている場合に発生します。

この問題は、プライマリストレージコントローラーに接続されているディスクで、以前に RAID モードで設定されているコントローラーを使用して論理ボリュームが作成され、そのボリュームが消去されていない場合に発生することがあります。たとえば、過去に、サーバーが RAID モードのコントローラーを使用するように設定され、そのコントローラー上にいくつかの論理ボリュームが作成されたとします。今、同じコントローラーが非 RAID モードで構成されるとします。このとき、論理ボリュームは削除されていないとします。この状態で、移行が実行されると OS は起動に失敗します。このサーバーがディスクからの起動をいつまでも試みるため、無限ループに入ります。

推奨処置

次のいずれかの操作を実行します。

- コントローラーを RAID モードで構成してすべての論理ボリュームを削除し、次に、コントローラーを非 RAID モードに構成しなおして、移行を再び実行します。
- サーバーをコントローラーの RAID モードを使用するように設定し、移行を実行します。

- **一部の Microsoft Windows サーバーで、デジタル署名されたアプリケーションの確認が失敗する場合があります**

Microsoft Windows サーバーに VeriSign Class 3 Public Primary Certification Authority - G5 ルート証明書が含まれないと、アプリケーションのデジタル署名確認が失敗します。

Microsoft からのルート証明書の最新アップデートが含まれないサーバーでは、確認が失敗

します。Windows Update が無効になっていたり、サーバーがインターネットに接続されていなかったりすると、最新アップデートを使用できない場合があります。

推奨処置

VeriSigns の Web サイト（英語）を参照して、VeriSign の手順を実行します。

- **SIM での再検出の動作が不正である**

ウィザードのステップ 6 で SIM の再検出オプションを選択した後に、失敗した検出のログが出力され、IP アドレスが検出されません。

推奨処置

Insight Control サーバー移行インストールディレクトリ (C:\Program Files (x86)\HP\Insight Control server migration\bin) にある hpvmm.conf ファイルを編集して、VMwareDisconnectTimeout = 90000 を追加します。

軽度な問題

- **Windows ドメインコントローラーを移行すると、ブルースクリーンエラーが発生し、エラー番号 0xc0000001 が生成されることがある**

B110i G7 で構成されている ML110 G7 で、プライマリドメインコントローラーとして構成されている Windows 2008 SP2 x 32 の X2P 移行を開始すると、移行は成功しますが、その後にターゲットサーバーで BSOD (Blue Screen of Death) が発生します。

推奨処置

ディレクトリサービス復元モードでサーバーを再起動し、コマンドプロンプトで以下の各コマンドを実行します。

1. サーバーを再起動し、**F8** キーを押します。**[ディレクトリサービス復元モード]**を選択します。
2. ローカル管理者のユーザー名とパスワードでログインし、コマンドプロンプトを開きます。
3. cd \windows\system32 と入力します。
4. NTDSUTIL と入力します。
5. activate instance NTDS と入力します。
6. files と入力します。

Jet エンジンが初期化できなかったことを示すエラーを確認したら、NTDSUTIL を終了します。

Jet エンジンエラーを修正するために、次の手順を実行します。

1. cd \ と入力します。
2. md backupad と入力します。
3. cd \windows\ntds と入力します。
4. copy ntds.dit c:\backupad と入力します。
5. cd \windows\system32 と入力します。
6. esentutl /g c:\windows\ntds\ntds.dit と入力します。
このコマンドにより、整合性チェックが実行されます。結果は、Jet データベースの破損を示します。
7. esentutl /p c:\windows\ntds\ntds.dit と入力します。
プロンプトに同意します。
8. cd \windows\ntds と入力します。
9. move *.log c:\backupad と入力するか、またはログファイルを削除します。
以上で、修復は完了しました。

修復が成功したかどうかを確認するために、以下の各コマンドを入力します。

1. `cd \windows\system32` と入力します。
2. `ntdsutil` と入力します。
3. `activate instance ntds` と入力します。
4. `files` と入力します。
エラーは検出されません。
5. `info` と入力します。
ファイル情報が表示されます。

- **RHEL 6.6 OS をターゲットサーバーに移行後、OS のブートで応答がない**

RHEL 6.6 OS の移行後ターゲットサーバーで、OS のブートが応答していないように見え、次のメッセージが表示されます。Starting udev: udevd[402]: GOTO 'pulseaudio_check_usb' has no matching label in: '/lib/udev/rules.d/90-pulseaudio.rules' udevd[402]: GOTO 'pulseaudio_check_usb' has no matching label in: '/lib/udev/rules.d/90-pulseaudio.rules. 詳しくは、https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1159711 および <http://bugs.centos.org/view.php?id=7772> を参照してください。

推奨処置

これは、RHEL 6.6 OS の移行の既知の問題です。

- **X2V 移行の実行中に、自動ブートの取り消しが許可されない**

Hyper-V をターゲット VM ホストとして X2V 移行の自動ブートを行う際に、**[ステータス/ログの参照]** タブで **[キャンセル]** をクリックすると、確認メッセージが表示されます。しかし、確認のために **[OK]** をクリックしても、自動ブートは取り消されません。

推奨処置

ISO のコピーの進行中には、タスクを取り消すことはできません。VM の作成時には、タスクを取り消すことができます。

- **Qlogic iSCSI ストレージコントローラーでの RHEL 7.x および SLES 12 の移行後に、OS が起動せず、Dracut シェルで終了する**

推奨処置

Qlogic iSCSI ストレージコントローラーの RHEL 7 OS でこの問題が確認された場合、起動時に grub メニューで、`rd.iscsi.firmware` ブートパラメーターを削除してブートを続行します。その後のブート用の恒久的なソリューションとしては、`/boot/grub2/grub.cfg` (grub config) ファイルから、`rd.iscsi.firmware` パラメーターを削除します。

- **CN1000Q 上の Red Hat Enterprise Linux 6.2 32 - ビットインストール環境を移行後に起動すると約 20 分かかる**

推奨処置

これは既知の問題であり、将来のリリースで修正されます。

- **1 台のディスク上の 14 を超えるパーティションについては、Windows の移行がサポートされない**

Windows OS で 14 以上のパーティションを選択すると、V2V 移行ウィザードのステップ 4 で次のエラーメッセージが表示されます。

ターゲットディスク < ターゲットディスク名 > は、そのパーティションのリミットに達しています。別のディスクにこのディスク用に 1 つ以上の選択したボリュームグループの移行を試すか、一部のパーティション/ボリュームグループをスキップするためにパラメーターをアップデートしてください。

推奨処置

1 台のディスクについて Windows 移行でサポートされるパーティションの最大数は 13 です。この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- このディスクについて選択した 1 つまたは複数のボリュームグループを別のディスクに移行できます。
- 移行ウィザードの**ステップ 2**に戻って、いくつかのパーティション/ボリュームグループの選択を解除します。

HP Insight Control サーバープロビジョニング

制限事項

- **OS ビルドプランのジョブログに非 ASCII 文字の文字化けが表示される**

ICsp は OS ビルドプランのジョブログに ASCII テキストのみを表示します。UTF-8 テキストのような非 ASCII テキストの場合は文字化けして表示されることがあります。

推奨処置

OS ビルドプランのジョブログを正しく表示するために、スクリプトおよびカスタム属性値に ASCII テキストを使用してください。

- **VMware vSphere (ESXi) 5.x および 6.x の SAN (BFS) iSCSI 展開からのブートは、QLogic ベースのコンバージドネットワークアダプター (x3x) ではサポートされていません。たとえば、530FLB、630M などです**

推奨処置

『VMware vSphere Support Matrix』を参照してください。

- **HP 3PAR StoreServ ストレージからのブートによるターゲットサーバーへの RHEL 6.6 のインストール中にエラーが発生する**

HP 3PAR StoreServ ストレージボリュームで SAN OS インストールから RHEL 6.6 ブートを実行する場合、Logical Volume Manager パーティションを自動的に作成するデフォルトの `autopart` オプションは失敗します。この問題は、Logical Volume Manager パーティションでのみ発生します。

推奨処置

インストールを完了するには、LVM を使用する場合にカスタムのパーティショニングオプションを使用し、`autopart` を使用する代わりに手動でパーティションテーブルサイズを作成します。`kickstart` ファイルの次の例では、カスタムのパーティショニングコマンドで `autopart` オプションが置き換えられています。

```
zerombr
clearpart --all --initlabel
part /boot --fstype=ext3 --size=512
## Uncomment below line if target is in UEFI mode
###part /boot/efi --fstype=efi --size=512
part / --fstype=ext3 --size=4096 --grow --maxsize=8192
part swap --recommended
```

注記:

- HP 3PAR StoreServ ストレージを使用するとき、最小ブートパーティションのサイズは 256 MB です。
 - この最小ブートパーティション制限は、RHEL 6.7 には該当しません。
 - /var パーティションの作成は FCoE SAN 構成でサポートされていません。
-

- **HP 3PAR StoreServ ストレージからのブートによるターゲットサーバーへの SLES 12 のインストール中にエラーが発生する**

デフォルトのパーティショニングを使用して HP 3PAR StoreServ ストレージボリューム上の SAN OS インストールから SLES 12 ブートを実行する場合、256 MB 未満の MBR パーティションが自動的に作成されるため、インストールは失敗します。

推奨処置

SLES12 Autoyast 構成ファイル内のカスタムパーティション設定を変更し、次の例に示すように MBR パーティションサイズを 256 MB 以上に設定します。

```
<partitioning config:type="list">
  <drive>
    <device>/dev/sda</device>
  <initialize config:type="boolean">>true</initialize>
  <partitions config:type="list">
    <partition>
      <mount>/boot</mount>
      <size>512mb</size>
    </partition>
    <partition>
      <mount>/</mount>
      <size>auto</size>
    </partition>
    <partition>
      <mount>swap</mount>
      <size>2gb</size>
    </partition>
  </partitions>
</drive>
</partitioning>
```

- **SLES 11.3 をいずれかの Gen9 サーバーにインストールするには、ブート可能ドライバーキット (kISO) が必要**

SLES 11.3 をいずれかの ProLiant Gen9 サーバーにインストールするには、特別なブート可能ドライバーキット (旧名称 kISO) を、メディアサーバー上の SLES ディストリビューションに追加する必要があります。

推奨処置

メディアサーバー上の SLES ディストリビューションにブート可能ドライバーキットを追加するには、以下の手順を実行します。

1. <http://drivers.suse.com/hp/HP-ProLiant-Gen9> にあるキットをダウンロードします。
2. ISO を開きます。
3. メディアサーバーで SLES 11.3 ディストリビューションのコピーを作成し、正しく名前を指定したフォルダーに配置します。たとえば、/Media/SLES-11SP3-kISO-x86_64 です。

注記: このキットは Gen9 サーバーのみが使用するので、キットのオリジナルバージョンを保持することをお勧めします。

4. 手順3で作成した新しいフォルダーで、新しいレポジトリディレクトリの下に **add-on** ディレクトリを作成します。たとえば、`Media/SLES-11SP3-kISO-x86_64/addon` を作成します。
 5. **addon** ディレクトリにキットの内容をコピーします。
 6. 次のようにして、元のインストール用 **kernel** および **initrd** ファイルを、キットの **add-on** ディレクトリのもので置き換えます。
 - a. `addon/boot/x86_64/loader/initrd` to `boot/x86_64/loader/initrd` をコピーします。
 - b. `addon/boot/x86_64/loader/linux` to `boot/x86_64/loader/linux` をコピーします。
 7. アプライアンスの UI で **SLES11 SP3** ビルドプランを検索し、**[名前を付けて保存]** を選択して編集可能な既存の **SLES11 SP3** ビルドプランから OS ビルドプランを作成します。
 8. 新しいビルドプランで **Set Media Source** ステップを編集し、新しいディレクトリを指すようにパラメーターを変更します。
 9. 必要なすべてのドライバーはキットに含まれているため、**ProLiant Drivers for SLES11 SP3 x64** ステップを削除します。
 10. **Embed files initrd** ステップのパラメーターフィールドから `-s /tmp/dud` を削除します。
- **Intelligent Provisioning V2.01 および SPP 2015.04 ファームウェアが備えられた Gen9 サーバー上で UEFI ESXi のインストールが失敗する**

SPP の 2015.04 バージョンに更新され、Intelligent Provisioning V2.01 が稼働する Gen9 サーバーに、ファームウェアの非互換性があります。UEFI モードで VMware ESXi をインストールすると、ビルドプランは **Add ESXi Boot Option To UEFI Boot Order** ステップで失敗します。

推奨処置

この問題を解決するには、以下のオプションを実行してください。

1. UEFI ブートメニューに他の OS がまだ存在しないサーバーに VMware ESXi をインストールする場合は、ビルドプランから **Add ESXi Boot Option To UEFI Boot Order** ステップを削除してからやり直してください。
 2. オプション 1 が機能しない場合は、非互換性を修正するために Intelligent Provisioning をバージョン 2.10 にアップグレードする必要があります。
- **2013.09C から 2014.06 への Linux SPP のアップグレードで再起動がハングする**
- すでに SPP バージョン 2013.09C を実行し、B120i または B320i Smart アレイコントローラーを搭載しているサーバーに、SPP バージョン 2014.06 のオンライン Linux インストールを実行する場合、再起動中にターゲットサーバーがハングするので、SPP インストールは、Wait for HP SA Agent ステップでエラーコード 6 を表示して失敗します。

推奨処置

この問題を解決するには、次の 2 とおりの方法があります。

1. SPP インストールの後から再起動の前に 3 分間の遅延を追加するように、**SPP** ビルドプランを変更します。これを行うには、パラメーター `--minutes=3` を使用して Sleep ステップを Install Linux SPP ステップの直後にビルドプランに追加します。

2. SLES の hp-health コンポーネントをメディアサーバー上の SPP ディレクトリから削除します。コンポーネントには、次の命名規則があります：

hp-health-*.sles11.x86_64.rpm

- **RHEL ドライバー名を変更すると、別のドライバーパッケージを使用するときに問題が生じる場合がある**

アプライアンスに付属の 2014.09.0 RHEL ドライバーパッケージでは、Mellanox ドライバーの名前が以前のドライバーリリースから変更されています。HP が提供する RHEL kickstart ファイルは、新しいドライバー名に合わせて更新されます。ただし、新しいドライバーパッケージで古い kickstart ファイルを使用したり、古いドライバーパッケージで新しい kickstart ファイルを使用したりすると、ビルドプランは失敗します。

推奨処置

Kickstart ファイルで呼び出されたドライバーが、使用しているドライバーパッケージのバージョンに一致していることを確認します。

- RHEL ドライバーパッケージバージョン 2014.09.0 — ドライバー名は kmod-mlnx-en
- 2014.09.0 以前の RHEL ドライバーパッケージ — ドライバー名は kmod-mellanox-mlnx-en

- **VMware ESXi 5.1 Update 2 インストールが Read only filesystem エラーで失敗する場合がある**

サーバーおよびストレージカードの特定の組み合わせでは、VMware ESXi 5.1 Update 2 のインストール時に Read only filesystem エラーが発生する場合があります。

推奨処置

この問題は VMware ESXi 5.1 Update 2 にのみ存在するため、VMware ESXi 5.1 Update 3 または VMware ESXi 5.5 Update 2 を使用します。

重要な問題

- **ProLiant SW – Intelligent Provisioning Firmware Update OS ビルドプランで、IP バージョン 2.40 に更新できない**

現在、回避策はありません。この問題は、次回のリリースで解決される予定です。

- **ユーザー定義のコンテンツ機能をインポートおよびエクスポートする REST API が ICsp 7.5 Update 1 リリースで失敗する**

現在、回避策はありません。この問題は、次回のリリースで解決される予定です。

- **Windows OS ビルドプランが partition disk for Windows failed with exit code 87 エラーにより失敗する場合がある**

次の条件があるため、Windows を繰り返し展開している間に誤ったディスク番号値が SystemDiskNumber に格納される可能性があります。

- UEFI とレガシーの間でのサーバーブートモードの切り替え
- ストレージ構成の変更

推奨処置

OS ビルドプランが適切なディスクを自動的に決定できるように、サーバーページの SystemDiskNumber カスタム属性を削除します。

- **一度に 8 つ以上の OS 展開を含む単一のジョブが 249 エラーのために失敗することがある**
単一のジョブを使用して一度に 8 つを超える OS 展開を実行すると、ネットワークパフォーマンスが原因で失敗することがあります。

推奨処置

単一のジョブで 8 つ以下の OS 展開を実行します。

- **Ubuntu 14.04 のインストールで静的 IP アドレスを使用する場合、DNS IP アドレスを hpsa_netconfig カスタム属性に指定する**

静的 IP アドレスを使用するとき、インストール前のネットワークの個別設定機能では、DNS の IP アドレスを hpsa_netconfig カスタム属性に指定する必要があります。

Ubuntu の最小のオペレーティングシステム要件については、[HPE Servers Support and Certification Matrices](#) を参照してください。

- **サーバーを追加するための REST API コールを頻繁に行うと、失敗する場合がある**

前のサーバー追加から 30 秒以内に REST API を呼び出すと、タイムアウトで失敗する場合があります。

『HPE Insight Control サーバードプロビジョニングのオンラインヘルプ』に示されているように、20 秒の遅れでも問題が発生することがあります。

推奨処置

複数のサーバーをアプライアンスに追加する場合は、次の REST API コールまでに、最低でも 30 秒間遅らせる必要があります。

- **SLES 12 のインストールがモニターのインストールステップで失敗する場合があります、ターゲットが自動インストールスクリプトの実行でハングアップする**

多くの展開を同時に行うと、HP Server Automation エージェントとアプライアンスとの通信に遅延が発生します。

推奨処置

OS ビルドプランを再試行します。

- **Windows 2012 の展開中に ROSH エラーが観測される**

多くの展開を同時に行うと、HP Server Automation エージェントとアプライアンスとの通信に遅延が発生します。

推奨処置

OS ビルドプランを再試行します。

- **RHEL 7.1 が NC551i/NC553i および HP 3PAR StoreServ ストレージで断続的にハングする**

HP 3PAR StoreServ ストレージに接続されている NC551i または NC553i コントローラーを使用して、BL460cG7 または BL490cG7 に RHEL 7.1 をインストールすると、インストール画面がハングすることがあります。

推奨処置

RHEL 7.1 の kickstart ファイルを編集し、次のスクリプトを含めます。

```
%pre
cp /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg <depl-nic> \
/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-ksdev0
sed -i 's/<depl-nic>/ksdev0/g
/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-ksdev0
sleep 2
/etc/init.d/network restart dhclient en<depl-nic>
%end
```

<depl-nic> は、enp2s0f0 などの展開 NIC の名前に置き換えることができます。

- **アップグレード後に Windows 2008 R2 SP 1 スクリプトインストールが失敗する**

アップグレード後に、以下の場合に Windows 2008 R2 SP 1 スクリプトインストールが失敗します。

- Insight Control サーバープロビジョニング (ICsp) 旧バージョン (7.3.1、7.3.2、7.4.0、7.4.1) から 7.5.0 にアップグレードする場合。
- WinPE 4.0 を古いアプライアンスにアップロードする場合。
- WinPE 3.1 を新しいアプライアンスにアップロードする場合。
- IP を使用して OS ビルドプランを実行する場合。Windows 2008 の OS ビルドプランは実行できません。

推奨処置

この問題を解決するには、以下の手順によって Windows 2008 の展開に PXE を使用できます。

1. インストール可能な zip ファイルから WinPE 3.1 をアプライアンスにアップロードします。
2. OS ビルドプランの最初のブートステップに `--method=network --force` を追加します。
3. OS ビルドプランの **Install and Boot into local WinPE** ステップを省略します。

- **Verify Supported Boot Modes が失敗することがある**

OS ビルドプランを継続的に実行しているとき、場合によって **[Verify Supported Boot Modes]** が失敗することがあります。

推奨処置

サーバーを再起動し、POST サイクルが完了したことを確認します。サーバーの電源をオフにし、OS の展開を再試行します。

- **ステップ 18 で、SLES 12 OS ビルドプランが HP Server Automation エージェントの待機で失敗する**

直接接続されているストレージを 650M CNA および HP 3PAR StoreServ P7200 とともに使用すると、SLES 12 がインストールの開始に失敗します。

ターゲットからのエージェントが、割り当てられた時間内に HP Server Automation サーバーに接続しないときに、エラー 120 タイムアウトが発生します。

タイムアウトの原因は次のとおりです。

- HP Server Automation エージェントの障害。これにはエージェントを正しくインストールできないこと、エージェントを正常に起動できないこと、誤ったバージョンの HP Server Automation エージェントがインストールされていることなどがあります。
- ネットワーク障害。これにはターゲットとサーバーが異なる VLAN にあること、IP が NIC に割り当てられていないこと、NIC が接続されていないこと、VLAN 構成が間違っていることなどがあります。
- ターゲットまたはスイッチのポート 3001 のファイアウォール設定がブロックされていることなど。
- ターゲットサーバーのステータス。これにはサーバーがブート中にハングアップしたこと、サーバーの電源が切断されていること、サーバーのブート順序が間違っていること、BIOS 設定が無効であること、BFS 構成が無効であることなどがあります。
- エージェントがサーバーに接続することを妨げる他のすべての障害。

推奨処置

OS 展開を再試行します。

- **PXE RHEL 6.6 で ICsp 7.5 および ICsp 7.5 Update 1 を使用したオフラインファームウェアアップデートが失敗する**

G7/G6/G5 サーバーで OS ビルドプランを使用したオフラインファームウェアアップデートが失敗し、OS ビルドプランログに以下のメッセージが表示されます。

```
ICsp file ../../preinstaller/CP024067.scexe execution failed with  
return code [1] !!
```

ICsp は、ICsp 7.4.1 以前の PXE サービス OS に別のライブラリを追加するため、SPP 2015.04、2015.06、および 2015.10 に PXE 修復コンポーネントを提供しています。これは、旧バージョンでの完全な SPP 展開をサポートするために用意されています。ICsp 7.5 は、サービス OS の 1 つとして RHEL 6.5 (旧バージョンで使用) ではなく RHEL 6.6 を使用します。SPP 内の 7.4.1 コンポーネントが RHEL 6.6 をサポートしないため、ICsp 7.5 は検証中に失敗します。

ICsp 7.5.0 では、デフォルトのサービス OS は RHEL 7.1 であり、RHEL 6.6 ではありません。RHEL 6.6 は古いサーバー (G7 以前) でのみ使用されます。

推奨処置

次の手順を実行します。

1. ICsp メディアサーバーの spp/<SPP version>/hp/preinstaller フォルダから CP024067.scexe ファイルを削除します。
 2. OS ビルドプランを再実行します。
- **ディレクトリサーバーを使用するとき、グループ名は英語でなければならない**
アプライアンスに追加された英語以外のグループ名は、表示および削除できません。

推奨処置

Insight Control サーバードプロビジョニングで使用する予定のすべてのグループ名を英語にします。

軽度な問題

- **ProLiant SW - Fiber Channel HBA Configure Boot Device ビルドプランで、HBA_Config カスタム属性がサンプル値で定義済みになる**

推奨処置

OS ビルドプランを実行する前にビルドプランをコピーし、カスタム属性値を変更します。

- **BOOT および REBOOT 操作中に STDERR が表示されることがある**

PXE Linux SOS を使用して OS ビルドプランを実行しているとき、次のエラーが表示される場合があります。

```
Errors from Step 18 'Reboot':/opt/opsware/agent/bin/python: can't  
open file '/opt/opsware/agent/pylibs/osprov/scripts/unmount.pyc':  
[Errno 2] No such file or directory.
```

推奨処置

このログは無害であり機能に影響しないため、無視してかまいません。

- **ネットワークの個別設定機能がサポートするのは英語版オペレーティングシステムのみ**
更新されたターゲットサーバーネットワークの個別設定機能は、現在のところ英語版オペレーティングシステムでのみ有効です。

- **カスタマイズされた名前のバックアップファイルは復元 UI には表示されません。**

バックアップの作成時、バックアップファイルの名前には固有の形式が使用されます。バックアップファイルの名前がデフォルト以外の形式に変更された場合、そのファイルはリストアの一部としてアプライアンスにアップロードされますが、アップロードされたファイルは UI には表示されません。

推奨処置

リストア操作を正常に行うため、ダウンロードしたバックアップファイルの名前は変更しないでください。

- **Windows イメージのキャプチャー中、SPP の日本語版 Smart コンポーネントが削除されない**

Windows イメージのキャプチャー時、そのシステム上の ProLiant ユーティリティはすべて、システムの個別設定解除の一環として削除されます。ビルドプランステップ Uninstall HP ProLiant Utilities は、英語および日本語版の OS でこの作業を自動的に実行することになっていますが、このステップは日本語版 OS で正しく動作しません。

推奨処置

日本語システムでは、キャプチャーする前に手動でエージェントをアンインストールするか、この作業を行うスクリプトを作成して、ビルドプランに追加します。

注記: UTF-8 文字を正しく処理できないので、VBScript でスクリプトを作成しないでください。

ドキュメントに関する問題

- **英語版オンラインヘルプでのみ入手可能な最新の更新情報**

最新の追加情報がいくつか英語版のオンラインヘルプに加えられましたが、日本語版および中国語版のオンラインヘルプでは入手できません。

- **トラブルシューティングの章の「Windows ビルドプランの失敗」の項に次の問題が追加されました。**

Windows のインストールがシステムパーティションエラーで失敗する可能性がある

Windows のインストールが、「新しいシステムパーティションを作成できなかったか、既存のシステムパーティションは見つかりませんでした」エラーで失敗します。

推奨処置

ディスク上の既存のパーティションにより、Windows インストーラーは起動ディスクパーティションを検出できない可能性があります。ディスクをクリーンアップして OS 展開を再試行するには、**Eraser Server OS** ビルドプランを実行します。

- **「その他」セクション。**

Ubuntu 14.04 が複数のディスクシステムをインストールできない

推奨処置

Hewlett Packard Enterprise 提供の ESXi ビルドプランおよび Ubuntu ビルドプランは、最初に検出されたドライブにのみインストールされます。RBSU の目的のドライブ以外のドライブをすべて無効にするか、アンサーファイルで明示的にインストール先のドライブを指定します。

- **トラブルシューティングの章の「サーバーの追加と起動のトラブルシューティング」の項に、次の問題が追加されました。**

サーバー追加の REST API を頻繁に呼び出すと、失敗することがある

前のサーバー追加の REST 呼び出しから 30 秒以内にサーバー追加の REST API を呼び出すと、タイムアウトで失敗することがあります。

推奨処置

複数のサーバーを追加するときは、次のサーバー追加の REST API 呼び出しまでに最低 30 秒遅延させます。

- 「ハードウェアおよびソフトウェア固有の手順および例外」の章の「3PAR 上の SLES 12 はカスタムのパーティショニングを必要とする」の項で、以下の変更が行われました。
SLES12 Autoyast 構成ファイルで、3PAR カスタムパーティションのために次の行が追加されました。

```
<initialize config:type="boolean">true</initialize>.
```

- **Firefox および VMconsole で日本語版のディレクトリグループの名前の項目が見つからない**
REST API コールから返されるエラーメッセージが、日本語の Windows DOS ボックスに正しく表示されません。

推奨処置

1. Firefox のアドレスバーに `about:config` と入力し、**Enter** を押します。
2. `network.standard-url.escape-utf8` を選択し、`false` に変更します。

HP Insight Control 仮想マシン管理

制限事項

- **Hyper-V ホストを登録するときに WMI Mapper プロキシの IP を検証する必要がある**
Insight Control 仮想マシン管理は、WMI Mapper と通信し、次に Hyper-V ホストと通信するためにいずれかの CMS IP を使用します。仮想マシン管理がネットワークアダプターを使用することは可能ですが、通信に使用することはできません。**CMS IP** のランダムな選択により、Java InetAddress API を使用すると Matrix Operating Environment の使用事例でパフォーマンスの低下が発生することがあります。

推奨処置

この問題を解決するには、以下の手順を実行してください。

1. 仮想マシン管理のデバッグログを有効にすることによって、使用中の CMS IP を識別します。
 - a. コマンドプロンプトを開き、`<VMM-install>\clientapi\bin` と入力します
 - b. 次のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。
`Adminlogin.cmd`
 - c. 次のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。
`Cli setLogLevel -level DEBUG`
 - d. Hyper-V ホストが登録されている場合は、`<VMM-install>\logs\hvvmmsvc.log` ファイル内から文字列 `WMI Proxy IP =` を検索します。
 2. 通信に関する特定の CMS IP を使用する場合、`<VMM-install>\bin\hvvm.conf` ファイルにエントリ `WMIProxyServer=<IP Address>` を作成します。
 3. 仮想マシン管理サービスを再起動します。
- **ユーザーが DHCP 構成を指定すると、DNS サーバーの IP はネットワーク上の Windows または Linux のユーザーインターフェイスに表示されない**
これは、Windows または Linux の UI の問題です。

推奨処置

この問題を解決するには、Hyper-V VM の DNS サフィックスを手動で設定します。

- **ESXi の Windows ゲスト OS について、複数の DNS サフィックスがサポートされない。例えば、カンマ区切りのサフィックスはサポートされない。デフォルトでは、最初の DNS サフィックスの IP が設定される**

これは仮想マシン管理による制限です。

- **動的 IPv4 と静的 IPv6 を備える ESXi 上の Linux VM は、`resolv.conf` ファイル内にプライマリ DNS IP を示す**

これは仮想マシン管理による制限です。仮想マシン管理は Linux VM に複数の DNS IP を設定しますが、VM 内で作成される無人 xml は 1 つの IP アドレスだけを示します。

- **デュアルネットワーク送信で、DNS ドメインが DNS サフィックスと異なっており、DNS ドメインが VM 用のプライマリ DNS サフィックスを設定する場合に、複数の DNS サフィックスが正常に動作する**

- **ESXi 5.1 Update 1 VM は自動化された OS 展開後にネットワーク接続を切断する**

Matrix によって作成された ESXi 5.1 Update 1 VM に Microsoft Windows 2012 R2 Data Center Edition が展開されているとき、“電源投入”タスクが Matrix から呼び出された後にネットワーク接続が切断されます。この問題は Windows 2012 R2 DC Edition で見られますが、その他のバージョンで発生する場合があります。

推奨処置

OS の展開後に適切なネットワーク接続を手動で有効にします。

- **RDM ディスクサイズが変更（ストレージ側からの増減）されると、SAN を vCenter サーバーで再スキャンしても、Insight Control 仮想マシン管理は新しい RDM ディスクサイズを認識しない**

VMware vCenter は、ディスクサイズの変更に関して、EVA または HP 3PAR StoreServ ストレージ管理コンソールを介して実行されたすべての変更イベントの通知を取得します。ユーザーが EVA または HP 3PAR 管理コンソールを使用して LUN のサイズを増加または減少させた場合、vCenter はイベントを同様には生成しません。

推奨処置

仮想マシン管理サービスを再起動するか、ESXi ホストの登録を解除し、再びホストを登録して更新されたサイズを取得します。

- **RHEL 7.1 のカスタマイズが IP とホスト名の設定で失敗する**

これは VMware による制限です。

推奨処置

カスタマイズの後に手動で IP アドレスとホスト名を設定しなければなりません。

- **Hyper-V が DHCP IPv4 または IPv6 に DNS サフィックスのカスタマイズを適用しない**
Insight Control 仮想マシン管理で、`customizeSystem` API は Hyper-V VM の DNS サフィックスの設定をサポートしません。

推奨処置

これは、Windows の UI の問題です。この問題を解決するには、Hyper-V VM の DNS サフィックスを手動で設定します。

- **ESXi 上で稼働する Windows 2012 および 2008 を Insight Control 仮想マシン管理がカスタマイズしない**

Insight Control 仮想マシン管理は、ESXi ホスト上で稼働する Windows 2012 および 2008 ゲストオペレーティングシステムをカスタマイズしません。

推奨処置

これはVMwareによる制限である可能性があります。この問題を解決するには、ゲストオペレーティングシステムにSysprep 属性を手動で設定します。

- **ESXi 上の SUSE の DNS 検索サフィックスリストに、Insight Control 仮想マシン管理が DNS ドメインを追加しない**

Insight Control 仮想マシン管理customizeSystem API は、ESXi ホスト上の SUSE ゲストオペレーティングシステムのDNS検索サフィックスにDNSドメインを追加しません。

推奨処置

これはVMwareによる制限である可能性があります。この問題を解決するには、ESXi ホスト上のSUSEゲストオペレーティングシステムのDNS検索サフィックスに手動でDNSドメインを追加します。

- **ESXi 上の RHEL 7.1 OS が IPv6 DHCP サーバーから DHCP アドレスを取得しない**

Insight Control 仮想マシン管理customizeSystem API は、ESXi ホスト上の RHEL7.1 OS のIPv6 DHCP アドレスを追加しません。

推奨処置

これはVMwareによる制限である可能性があります。この問題を解決するには、ESXi ホスト上のRHEL 7.1 OS のDHCP アドレスを手動で有効にします。

- **Insight Control 仮想マシン管理は、ESXi サーバー上の Linux VM に複数の DNS サフィックスまたは DNS サーバーを設定しない**

Insight Control 仮想マシン管理customizeSystem API は、ESXi ホスト上のLinux VM のDNSサフィックスを複数設定することをサポートしません。

推奨処置

これはInsight Control 仮想マシン管理による制限です。この問題を解決するには、ESXi ホスト上のLinux VM のDNSサフィックスを手動で設定します。

- **IM 7.4 Update 1 で、Hyper-V 仮想マシンテンプレートの作成が失敗する**

デフォルトフォルダー C:\ProgramData\Microsoft の下でHyper-V 仮想マシンまたはテンプレートの作成を試みても、IM 7.4 Update 1 がトランスポート操作と制御操作をサポートしません。これはInsight Control 仮想マシン管理による制限です。

推奨処置

この問題を解決するために、Hyper-V マネージャー GUI またはフェールオーバークラスターマネージャー GUI を使用して、デフォルトフォルダーにVMまたはVMテンプレートを作成しないでください。

- **Hyper-V レプリカ環境では、VM の複製と計画済み/計画外のフェイルオーバーの後、VM は仮想マシン管理 UI で複製サーバーに関連付けられない**

プライマリサイトのVMで複製を有効にした後、計画済み/計画外のフェイルオーバーが発生しても、複製VMがプライマリホストに関連付けられたままで複製ホストには関連付けられていない場合があります。また、場合によっては、複製とフェイルオーバーの後、VMがホストとの正しい関連付けを表示しないことがあります。

推奨処置

計画済みのフェイルオーバーの後、複製 VM に対して、Hyper-V ホストからの逆方向の複製を有効にします。詳しくは、『HP Matrix Operating Environment Co-Existence with Microsoft Hyper-V Replica』ホワイトペーパーを参照してください。

- **静的 IP 割り当てを使用して展開された NVGRE テンプレートが、未識別のネットワークとして識別される**

Matrix Operating Environment を介して、静的 IP を備える Matrix インフラストラクチャオーケストレーションサービステンプレートの展開を試みると、ネットワークプロパティタブの下で、ネットワークが未識別のネットワークとして識別されます。

これは、Microsoft SCVMM からの予想される動作です。

- **ESX および Hyper-V 上のディスクのサイズ変更に関する制限事項**

以下のリストは、ESX および Hyper-V 上のディスクのサイズ変更に関する制限事項について説明します。

1. 仮想マシン管理からディスクのサイズを変更した後で、ユーザー/管理者は、仮想マシンのオペレーティングシステムのディスク管理から、サイズ変更したディスクのボリュームを拡張することになっています。
2. Hyper-V の場合、ディスクのサイズ変更は Hyper-V 2012、Hyper-V 2012 R2 ホスト以降で利用できます。
3. VMware の場合、ディスクのサイズ変更は VMware vCenter 5.0 以降で利用できます。
4. 縮小は、Hyper-V 2012、Hyper-V 2012 R2 ホスト以降でのみサポートされます。

- **Virtual Center から HotCPUPlug および HotMemoryPlug を有効または無効にする場合の制限**

Virtual Center の UI では、**電源オン**の状態にある VM (ESX) のメモリまたは CPU のホットプラグを有効にすることはできません。

Insight Control 仮想マシン管理は、VM の電源のオン/オフ状態に関係なく、メモリおよび CPU のホットプラグを有効または無効にすることをサポートします。これは、VISDK により、電源がオンの状態にある VM のメモリおよび CPU のホットプラグを有効または無効にできるためです。

Virtual Center でメモリまたは CPU のホットプラグオプションを利用できないゲストオペレーティングシステムを次のリストに示します。

- Microsoft Windows XP Professional (32 ビット)
- Microsoft Windows XP Professional (64 ビット)
- Microsoft Windows Vista (32 ビット)
- Microsoft Windows Vista (64 ビット)
- Microsoft Windows Small Business Server 2003
- Microsoft Windows Server 2003 Standard (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003 Standard (64 ビット)
- Microsoft Windows Server Web Edition 2003
- Red Hat Enterprise Linux 5 (32 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 4 (64 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 4 (32 ビット)

- Red Hat Enterprise Linux 3 (64 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 3 (32 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 2.1
- Novell SUSE Linux Enterprise 10 (32 ビット)
- Novell SUSE Linux Enterprise 8/9 (64 ビット)
- Novell SUSE Linux Enterprise 8/9 (32 ビット)
- Novell Open Enterprise Server
- Novell Netware 6.x
- Novell Netware 5.1
- Oracle Solaris 11 (64 ビット)
- Oracle Solaris 10 (64 ビット)
- Oracle Solaris 10 (32 ビット)
- **Microsoft Robocopy ツールを使用すると、転送操作が失敗する**
 Microsoft の Robocopy ツールを使用し、転送操作 (createTemplate、DeployTemplate、copyVM) の一部として VHD ファイルをコピーする場合、1 テラバイト (TB) を超える仮想ハードディスクをコピーしようとする、Robocopy ジョブがコピープロセスをデーモンスレッドとして作成し、呼び出し元に戻ります。このため、転送操作が失敗することがあります。
推奨処置
 これは、Microsoft の Robocopy ツールの制限です。
- **VM がネットワークアダプターを持っていないと、ESXi 上の RHEL 6.x ゲスト OS のカスタマイズが失敗する**
 RHEL 6.X ゲスト OS のインストール時に、ESXi VM がネットワークアダプターを持っていないと、OS のカスタマイズは必ず失敗します。RHEL 6.x 以前 (例: 5.x バージョン) では、VM に接続されているネットワークアダプターがない場合でも、RHEL は /etc/sysconfig/ネットワークフォルダーを作成します。6.x以降のリリースでは、OS のインストール時にユーザーがネットワークアダプターを接続しないかぎり、RHEL はこのフォルダーを作成しません。
推奨処置
 RHEL 6.x 以降の OS では、OS のインストール中に、ユーザーがネットワークアダプターを接続する必要があります。そうしない場合は、touch /etc/sysconfig/network コマンドを使用して、ゲスト OS でフォルダーを手動で作成する必要があります。
- **Windows 2012 リンククローンゲストのカスタマイズが失敗する**
 ESX で、VC5.10b with ESXi5.1 および ESXi5.1U1 のホストで共有ディスクを持つ Windows 2012 リンククローンゲストをカスタマイズしようとする、カスタマイズが失敗します。

推奨処置

これは、Windows 2012 リンククローンゲストに対する VMware の制限です。

- **電源が入っている VM の CPU プロパティの更新に失敗する**

ESX で、オペレーティングシステムのない仮想マシン上で Hot ADD CPU 機能を有効にしていて、電源がオンの状態にある VM の CPU プロパティを更新しようとすると、更新が失敗します。これは、vCenter の UI および ViSDK の両方で発生します。

推奨処置

これは、オペレーティングシステムのない仮想マシンに対する VMware の制限であり、電源がオンの状態にある VM の CPU プロパティは更新できません。

- **パスワードに特殊文字 (“) を含むホストへの VM の展開が、予想どおりに機能しない**

パスワードに特殊文字 (") を含むホストに HP Matrix インフラストラクチャオーケストレーションで VM をプロビジョニングしようとすると、「Failed to copy sysprep files from CMS to Host.」というエラーメッセージが表示されて失敗します。

推奨処置

VM を正しくカスタマイズするために、ホストパスワードを特殊文字 (“) を含まないものに変更することをおすすめします。

- **Microsoft Hyper-V ゲストに関連する操作**

Microsoft Hyper-V サーバーに対して Insight Management コンポーネントから操作すると、Hyper-V ホスト上の C:\に一時ファイルが作成される場合があります。操作の完了後はこれらのファイルは必要がなく、手動で削除することができます。これらの操作には、仮想マシンのコピー、移動、テンプレート、バックアップ、リンクされたクローン、および VM カスタマイズなどがあります。

重要な問題

- **2 つのネットワークを持つ Hyper-V Gen2 を使用したサービスの作成が失敗する**

これは Insight Control 仮想マシン管理の問題で、Insight Control 仮想マシン管理はネットワークおよびハードディスクの 1 つのオブジェクトを維持します。ただし、Gen2 は VM と同様に多くのネットワークおよびディスクのブートオプションを作成します。

推奨処置

1. 論理サーバーが、Hyper-V 2012 R2 上の Gen2 タイプの VM におけるネットワークベースインストールのための、PXE ブートベースの 1 つのネットワークで構成されていることを確認します。
2. 2 つのネットワークアダプターを持つ Hyper-V 2012 R2 上の Gen2 タイプの VM では、“Add logical server” オプションを使用しないでください。

- **バックアップからの復元後に Hyper-V VM の電源をオンにできない**

原因：VM は指定されたパスから VHD を見つけることができないため、VM の復元後の電源オンに失敗する。

推奨処置

VM の電源をオンにする前に、VM ファイルがバックアップを取ったフォルダーから VHD ファイルをコピーします。VHD を取得するファイルの場所は、backup VM の下にある、VM 名が付いたフォルダーです。VM 名フォルダーから Virtual Hard Disks フォルダーを選択し、ここから VHD を使用できます。電源をオンにする前に、復元された VM に VHD をコピーします。

- **Insight Control 仮想マシン管理が Hyper-V のステータスとして切断を返す**

仮想マシン管理が保持している WMI Mapper IP が存在しない場合、Insight Control 仮想マシン管理は Hyper-V ホストのステータスを切断として返します。

推奨処置

WMI Mapper プロキシの IP を変更するときに、仮想マシン管理サービスを再起動するか、仮想マシン管理 `conf` ファイル (WMIProxyServer) にキー値を入力します。仮想マシン管理サービスを再起動します。

- **2つのネットワークアダプターが別々の DNS サフィックスを持つ場合、ESXi Linux の VM のカスタマイズが失敗する**

2つのネットワークアダプターを持つ ESXi VM ホストで (HP Matrix インフラストラクチャオーケストレーションを使用して) Linux VM を作成またはプロビジョニングし、Linux VM と DNS サフィックスを各ネットワークアダプターのドメインに追加すると、操作は失敗します。ドメイン名が 2 番目のネットワーク DNS サフィックスと一致する場合、ゲストの正しい FQDN は設定されません。これは、VMware に関わる問題です。

推奨処置

この問題を解決するには、Matrix インフラストラクチャオーケストレーションのネットワークタブで、常にプライマリ NIC を使用します。プライマリ NIC は、サービス要求を作成するための、同じドメイン名と DNS サフィックスを持ちます。

- **エラーメッセージ: Could not find a valid cluster disk resource (有効なクラスターディスクリソースが見つかりませんでした)**

大規模環境では、Matrix インフラストラクチャオーケストレーションサービス要求は失敗し、Could not find a valid cluster disk resource (有効なクラスターディスクリソースが見つかりませんでした) というメッセージが生成されます。

これは Microsoft WMI の問題であり、WMI はクラスターディスクリソースの検索に時間を要します。

推奨処置

WMI サービスまたは Hyper-V ホストを再起動します。

- **SCVMM (Microsoft System Center Virtual Machine Management) での、同じ VM 名を持つ 2 つのエントリ**

Hyper-V VM を SCVMM 2012 SP 1 および SCVMM 2012 R2 上の論理スイッチと関連付けると、SCVMM コンソールが同じ名前の 2 つの VM を作成し、同じ VM ファイルがポイントされます。

これは、SCVMM コンソールの問題です。

推奨処置

重複するインスタンスを無視します。SCVMM コンソールから、重複する VM を削除しないでください。

- **Insight Control 仮想マシン管理がプロビジョニングの実行中に仮想ハードディスクの詳細情報の更新に失敗する**

Hyper-V VM がクローン化された VM にリンクされている場合、リンクされたクローンにデータディスクを接続しようとする、操作は失敗します。次のエラーメッセージを受信する場合があります: Drive in Use. (ドライブは使用中です。) Unable to attach Virtual Hard Disk. (仮想ハードディスクを接続できません。)

これは Microsoft の問題であり、WMI がディスクへの接続に失敗しています。また、WMI プロセスは、ディスク接続の目的での WMI クエリの実行のためにロックされます。

推奨処置

この問題を解決するには、Hyper-V ホストを再起動します。

- **SCVMM の展開が Gen2 仮想マシンで失敗する**

SCVMM から Gen2 仮想マシンのテンプレートを作成し展開しようとする、展開は「vmm cannot find the device or this device is not valid for a boot device」というエラーメッセージが表示されて失敗します。

推奨処置 1

VM の作成後、テンプレートの作成前に、ブート順序を変更します。仮想ハードディスクをブート順序の最上位に移し、SCVMM からテンプレートを取得します。これにより、Gen2 VM の SCVMM 展開に関する問題が解決されます。

推奨処置 2

VM からテンプレートを作成した後、テンプレートの最初のブートデバイスを有効なデバイス（この場合は仮想ハードディスク）に変更します。たとえば、PS C:\>
Set-SCVMTemplate -Template \$t -FirstBootDevice "SCSI,0,0"とします。

- **Microsoft Windows Server 2012 Hyper-V と Microsoft Windows Server 2012 R2 Hyper-V で、Hyper-V プロビジョニングがタイムアウトエラーで失敗する**

Microsoft Windows Server 2012 Hyper-V と Microsoft Windows Server 2012 R2 Hyper-V で、Hyper-V プロビジョニングがタイムアウトエラーで失敗します。また、展開した VM の登録に失敗することがあります。Hyper-V ホストのパフォーマンスが低下すると、WMI クエリによる必要なデータの取得が遅くなります。

推奨処置

この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

1. <vmm-install>\bin\hpvm.conf のパラメーター *HyperVQueryTimeout* を使用して *CIM Client time out* 期間を **900000** に増やし、Insight Control 仮想マシン管理サービスを再起動します。
2. <MAPPER_INSTALLED_DIR> の *cimserver_planned.conf* ファイルで *serverTimeOut* の値を **900000** に設定し、マッパーを再起動します。

- **Insight Control 仮想マシン管理を使用して、仮想マシンの電源のオンまたはオフの操作を実行できない**

VM をバックアップからリストアした場合、Insight Control 仮想マシン管理を使用して VM の電源をオンまたはオフにする操作が失敗します。バックアップおよびリストアは、HP Data Protector ソフトウェアを使用して実行します。バックアップされた VM の場合は、getVmDetails API で、間違ったデータが表示されます。

推奨処置

次の手順を使用して、vCenter で VM を登録解除/登録します。

1. vCenter で VM を選択し（VM が電源オフの状態にあることを確認します）、右クリックして **[インベントリから削除]** を選択します。これにより、インベントリから VM が登録解除されます。
2. **[vCenter インベントリ]→[データストアおよびデータストアクラスター]** に移動します。
3. VM が以前存在していたデータストアを選択し、右クリックしてデータストアを参照します。

4. データストアで VM の .vmx ファイルを選択し、右クリックしてオプション **[インベントリへの追加]**を選択します。これにより、VMの登録が完了します。仮想マシン管理から VM の電源のオンまたはオフの操作を実行できるようになりました。

- **ロックダウンモードで、VMware ESXi 4.x ホストが VMware vCenter 4.x によって管理されている場合、root の認証情報を入力してもこれらのホストを Insight Control コンポーネントで監視および管理することができない**

ロックダウンモードで、VMware ESXi 4.x ホストが VMware vCenter 4.x によって管理されている場合、root の認証情報を入力してもこれらのホストを Insight Control コンポーネントで監視および管理することはできません。vCenter 4.x がロックダウン有効モードで管理する必要がある各 VMware ESXi 4.x ホストで権限を持つユーザー（たとえば、<remmgr>）を作成する必要があります。

- **ホストの IP アドレスを変更すると、仮想マシン管理はホストを管理できない**

ハイパーバイザーホストの IP アドレスが変更されると、仮想マシン管理はホストを管理できなくなります。

推奨処置

IP アドレスを変更する前にハイパーバイザーホストの登録を解除することをおすすめします。IP アドレスが変更された後で、HP Systems Insight Manager でホストを識別し、仮想マシン管理に登録します。ホストの登録を解除しないで IP アドレスを変更する場合は、vmcli ツールを使用して古い IP アドレスでホストの登録を解除し、新しい IP アドレスで登録します。

- **VMware は、ディザスターリカバリの一環として、保護されたサイトでアクセスできなくなったライブ VM とシャドウ VM の両方で、Insight Control 仮想マシン管理に同じ UUID を返す（ディザスターリカバリは VMware vCenter SRM プラグインを使用してトリガーできる）**

これは、VMware の問題です。

推奨処置

1 つ以上のホストが切断されているかオフラインになっている場合は、SRM リカバリプロセスを完了する準備ができるまで、オンラインに戻さないでください。1 つ以上のホストでストレージにアクセスできない場合は、問題が解決されて、SRM リカバリプロセスを開始する準備ができるまで、それらのホストをシャットダウンする必要があります。

- **Microsoft Windows 2012 R2 ホストで静的 IPv4 が使用されている場合、Microsoft Windows 2012 のゲストの NIC のカスタマイズが失敗する**

Windows 2012 R2 Hyper-V ホストでゲストとして Windows Server 2012 に sysprep を実行しようとする場合、特定のツールが VM にインストールされている場合を除き、IPv4 アドレスが正しく設定されません。IPv6 アドレス、IPv4 DNS、およびゲートウェイアドレスは、Insight Control 仮想マシン管理から提供される sysprep.xml ファイルを使用して正しく設定されます。

推奨処置

sysprep を実行する前に VM に静的 IP が設定されている場合は、この問題は発生しません。したがって、sysprep の実行前に汎用的な疑似静的 IPv4 アドレスを設定することで、この問題は回避できます。設定しない場合は、この問題を防止するために、sysprep を実行する前に、Windows 8 Client および Windows Server 2012 の一般公開用の更新プログラムのロールアップを VM にインストールする必要があります。KB 2756872 のリンクは <http://support.microsoft.com/kb/2756872>、更新プログラムをダウンロードするリンクは <http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=34943> です。

カスタマイズの一環として、Hyper-V 2012 R2 ホストで Microsoft Windows 2012 のゲストを作成する場合、およびゲスト VM でコマンド

C:\Windows\System32\Sysprep\Sysprep.exe を使用してゲストに sysprep を行おうとした場合、再起動時に「vmbus.sys couldn't be loaded」というエラーが表示

されて失敗します。この問題を解決するには、sysprep を実行する前に、Windows 8 Client および Windows Server 2012 の一般公開用の更新プログラムのロールアップを VM にインストールする必要があります。

- **デュアル NIC シナリオのセカンダリ NIC 用にプロビジョニングされた VM に、デフォルトのゲートウェイが設定されていない**

VM を正常にプロビジョニングした後で、セカンダリ NIC にデフォルトのゲートウェイが設定されていません。

推奨処置

セカンダリ NIC の IP アドレスにアクセスするには、セカンダリ NIC でデフォルトのゲートウェイを手動で追加します。

軽度な問題

- **ESXi 5.5 Update 2 でホストされている RHEL 7.0 ゲストでカスタマイズに失敗する**
これは VMware の問題で、VCenter カスタマイズ仕様を使用しても再現可能です。

推奨処置

この問題を解決するには、VM にカスタマイズ可能なパラメーターを手動で設定します。

- **計画外のフェイルオーバー後に Hyper-V 論理サーバーのアクティブ化が失敗する**

Hyper-V VM にパススルーディスクが接続されていて、ユーザーが計画外のフェイルオーバーを実行した場合、VM ファイルを他のアクティブなノードにインポートすると常に失敗します。VM をインポートする前に、構成ファイルをアップデートする必要があることを確認します。

たとえば、プライマリホストの HBA の詳細は、

`<drive><pathname></pathname></drive>` コマンドを使用して削除します。

推奨処置

この問題を解決するには、各ノードのディスク ID が同じであることを確認します。

- **クラスター化された Hyper-V ホスト上のディスク番号が異なる場合に Hyper-V 論理サーバーのアクティブ化が失敗する**

この問題は、所有者ノードでない Hyper-V ノードについてのみ発生します。Hyper-V クラスターのクラスターディスクのディスク ID が異なる場合、VM は誤ったクラスターディスクに関連付けられます。

これは、Microsoft の問題です。

推奨処置

この問題を解決するには、各ノードのディスク ID が同じであることを確認します。

- **Hyper-V 2012 R2 ホスト RDM ディスクが OS によってマウントされている場合に VM がディスクを使用できない**

Hyper-V 2012 R2 ホスト上の VM でクラスターパススルーディスクがボリュームに接続されている（ドライブは後で割り当てられる）場合、VM の非アクティブ時にボリュームが Hyper-V ホスト上に表示されます。結果として、getHostDetailsAPI フラグ inUse は“1”と表示されます。また、ターゲットホストは、VM をアクティブ化する際にフィルター処理されます。

推奨処置

この問題を解決するには、VM をアクティブ化する前に、手動でクラスターディスクをオフラインに設定します。その後、ターゲットのHyper-Vホストを選択して、ディスクをオンラインとして設定します。

- **複数のネットワークを持つ Hyper-V Generation 2 の VM を使用してサービスを作成することができない**

Insight Control サーバープロビジョニングまたは HP Server Automation を使用して、Hyper-V 2012 上でホストされる Generation 2 の Hyper-V VM への自動 OS プロビジョニングを行うとき、VM に複数のネットワークがあり、PXE がネットワークのサブセットで使用されている場合はエラーがあります。

推奨処置

- Insight Control サーバープロビジョニングまたは HP Server Automation を、Hyper-V 2012 R2 上でホストされる Generation 2 の VM とともに使用して、論理サーバーが 1 つの PXE ブートネットワークで構成されてその他のネットワークがないこと、またはすべてのネットワークで PXE が有効になっていることを確認します。
- Insight Control サーバープロビジョニングまたは HP Server Automation を、Generation 2 ではなく Generation 1 の VM とともに使用します。
- Insight Control サーバープロビジョニングまたは HP Server Automation ではなく手動 OS プロビジョニングを使用します。

注記: 初期 OS プロビジョニングの後にネットワークを手動で追加するとき、Hyper-V 2012 R2 上の Generation 2 の VM に複数のネットワークアダプターがあり、PXE がネットワークのサブセットで使用されている場合は、Matrix インフラストラクチャオーケストレーションの [サーバー追加] 操作が失敗します。

- **Hyper-V VM での Raw LUN (ディスクパススルー) ディスクの追加が失敗する**

Hyper-V VM の RDM ディスクを追加すると、エラーメッセージ「minimum of 2048 MB for RAM memory required」で失敗します。ある時点で、WMI データベースはメモリの値を -1 に設定します。したがって、VM 設定のすべての更新で操作が失敗します。

推奨処置

メモリを有効な値にアップデートするには、VM の電源をオンまたはオフにします。この操作により VM の状態が更新され、それに応じて VM の設定が自動的にアップデートされます。

- **Insight Control 仮想マシン管理が、ESXi 上で稼働する Microsoft Windows 2012 または Microsoft Windows 2008 をカスタマイズできない**

場合によっては、Insight Control 仮想マシン管理が、ESXi ホスト上で稼働する Microsoft Windows 2012 または Microsoft Windows 2008 ゲストオペレーティングシステムをカスタマイズできないことがあります。

これは VMware による制限です。

推奨処置

この問題を解決するには、ゲストオペレーティングシステムの *Sysprep* 属性を手動で設定します。

- **Raw Device Mapping (RDM) ディスクを使用する VM を別のホストのインベントリに追加すると、レイアウトディスク MOB の取り込みに失敗する**

RDM ディスクサイズをストレージ UI out-of-band から更新する場合、`getVmDetails` コマンドは、更新後のディスクサイズを表示しません。

推奨処置

これは Insight Control 仮想マシン管理の制限で、VMware ViSDK は更新されたデータを取り出しません。

- **VM 上の createLinkedClone API が、VMware VVOL\Virtual SAN データストアに対して失敗する**

ソース VM 上で作成されたスナップショットは、VVOL\Virtual SAN データストア上にいずれかのデルタ VMDK ファイルを作成しません。これは、VMware の問題です。

現時点では、既知の回避策はありません。

- **Hyper-V VM の正しくない論理サーバー名が SuSE 12.1 とともに Matrix OE ビジュアル化に表示される**

Hyper-V VM については Linux のカスタマイズはサポートされていません。したがって、VM が論理サーバーとしてインポートされている場合は、ホスト名は `getaddrinfo failed: Name or service 0xffffffff nor known` として表示されます。

推奨処置

VM 内で、`/etc/hosts`, `/etc/sysconfig/network [HOSTNAME=]` および端末 `hostname` コマンドがまったく同じものであることを確認してください。たとえば、`test1` には `/etc/hosts` `127.0.0.1 test1 test1.domain localhost localhost.local` があり、`/etc/sysconfig/network` には `HOSTNAME= test1.domain.com` `NETWORKING=yes` がある必要があります。

- **2 つのディスクを持つ SCVMM Gen2 がデータディスクをブートディスクとして使用する**
複数の SCSI コントローラーに接続されている複数のディスクを含む Gen2 テンプレートを持つ SCVMM が、展開された VM のカスタマイズに失敗します。また、`getVmDetails` 仮想マシン管理 API により、ディスクとコントローラーの正しくない関連付けが表示されることがあります。

Microsoft は、SCSI コントローラーを識別するオプションを提供していません。

推奨処置

単一の SCSI コントローラーに接続されている複数のディスクを持つ SCVMM Gen2 のタイプのテンプレートを作成します。

- **すべての Hyper-V クラスターノードのクラスターディスクのディスク ID が異なる場合、VM が誤ったクラスターディスクに関連付けられる。この問題は、所有者以外のクラスターディスクにのみ発生する**

この動作はサポートされているすべての Hyper-V バージョンで表示され、フェールオーバークラスターマネージャー GUI などの Microsoft ツールを使用する場合に同様なことが見られます。

推奨処置

各ノード上のディスク ID が同じであることを確認します。

- **ホスト内でのディスクの重複を避けるために MPIO をインストールする必要がある**

いずれかの LUN がホストに接続されている場合、ディスク管理セクションで重複したディスクとして表示されます。

推奨処置

この問題を解決するには、ホストで MPIO を有効にする必要があります。

- **ESXi 6.0u2 での Win2008 R2 SP 1 ゲストカスタマイズについての自動ログインに失敗する**

ESXi 6.0 Update 2 の Windows 2008 R2 SP1 のゲスト VM でカスタマイズが成功した後に、自動ログインの代わりに Windows をセットアップするための画面のプロンプトが表示されます。ログインすると、他のすべてのカスタマイズパラメーターが設定されます。

これは、ESXi 6.0 Update 2 の Windows 2008 R2 SP 1 のゲストに対して見られる VMware の問題です。

- **IO プロビジョニング中に Hyper-V HA に対応した VM が、SAVED 状態でライブ移行する**
クラスターおよび NVGRE のネットワークの組み合わせが IO プロビジョニング中に使用される場合、HA に対応した仮想マシンが、SAVED 状態で別のノードに移動する場合があります。この条件により、仮想マシンの編集はできません。

推奨処置

この問題を解決するには、VM 内でクラスターネットワークと NVGRE 対応の論理スイッチの組み合わせを使用しないようにします。

- **Insight Control 仮想マシン管理のバージョンアップグレードにより、VME ステータスが切断として設定される**

Insight Control 仮想マシン管理バージョンをアップグレードすると、仮想マシン管理は VME ステータスを切断として設定します。

推奨処置

この問題を解決するには、VME の登録を解除してから再登録します。

- **CMS 上で SCVMM 2012 SP 1 および SCVMM 2012 R2 サーバーの登録が失敗する**
SCVMM 2012 SP 1 および SCVMM 2012 R2 サーバーの登録が失敗することがあります。これは断続的な問題であり、任意の CMS オペレーティングシステムで構成されている CMS 上では複数回確認されています。

推奨処置 1

この問題を解決するには、SCVMM サーバーの登録を再試行してください。

推奨処置 2

hpvmm.conf ファイル (<IM installation>\Insight Control virtual machine management\bin に存在) にパラメーター *SCVMM Retries* を追加し、値を 5 より大きい値に設定します。Insight Control 仮想マシン管理サービスを再起動し、登録を再試行してください。

推奨処置 3

まだ、SCVMM の登録に失敗する場合は、以下の手順を実行します。

1. HP Matrix SCVMM Web サービスが SCVMM サーバーにインストールされているかを確認します。
2. HP Matrix SCVMM Web サービスがインストールされていない場合、<IM installation>\Insight Control virtual machine management\bin からターゲットの SCVMM サーバーに *ScvmmWS2012.msi* ファイルをコピーします。
3. 手動で、HP Matrix SCVMM Web サービスをインストールします。
4. SCVMM サーバー上で HP Matrix SCVMM Web サービスを実行し、SCVMM サーバーを再登録します。

推奨処置 4

別の推奨される処置を以下に示します。

1. MSI をアップグレードする前に、VME を登録します。
2. アップグレードが完了したら、古い MSI がアンインストールされます。ただし、SCVMM サーバーに最新の MSI をコピーすることは Microsoft により許可されていないため、インストールに失敗する可能性があります。

- **仮想マシン名が正しく表示されない**

仮想マシン名に特殊文字が含まれている場合、仮想マシン管理のユーザーインターフェイスに仮想マシン名が正しく表示されない場合があります。

推奨処置

仮想マシン名に特殊文字を使用しないことをおすすめします。このような仮想マシン名を適切に変更してください。

- **ホスト/ゲスト制御ボタンが無効になっている**

仮想マシン名に非ANSI文字が含まれている場合、ホスト/ゲストシステムページにある制御ボタンは無効になります。

推奨処置

HP Systems Insight Manager のユーザーインターフェイスから、**[ツール]→[仮想マシン]** を実行し、適切な制御操作を選択します。

HP Insight Control パフォーマンス管理

制限事項

- **HP ProLiant DL580 Gen9 および HP ProLiant DL380 Gen9 オンライン分析ページで、左側ペインにあるコンポーネントが空白で表示される**

Insight Control パフォーマンス管理オンライン分析ページで、左側ペインの**サーバー構成**の下に、HP ProLiant DL580 Gen9 および HP ProLiant DL380 Gen9 サーバーについてのコンポーネントが示されていません。

推奨処置

現時点では、既知の回避策はありません。

- **Insight Control パフォーマンス管理の左側のペインに何も表示されない**

NIC チーミングが英語以外のアダプター名で監視対象のサーバーに構成されている場合、Insight Control パフォーマンス管理で左側のペインが空白になり、オフライン分析が表示されません。

推奨処置

チーミングアダプターのデバイス名を英語以外から英語に変更します。

- **ネットワークアダプターおよびポートが [オンライン分析] ページに表示されない**

モード0でボンディングされているNICがある場合、ネットワークアダプターおよびポートが**[オンライン分析]**ページに表示されません。そのボンディングも表示されません。これは、NIC ボンディングのランダムな動作が原因です。

- **構成の推奨事項**

このバージョンのソフトウェアでは、パフォーマンス管理に構成の推奨事項はありません。

- **OSとしてRHEL 7をインストールしているノードを監視しているときに、アイコンがクリティカルに変わる**

RHEL 7 Linux サーバーのPFアイコンは、MA（監視管理）ページで監視した後、クリティカルに変わります。

推奨処置

詳しくは、<http://www.hpe.com/jp/insightcontrol>にある『HP Insight Control パフォーマンス管理ユーザーガイド』のトラブルシューティングの項に記載されている手順に従ってください。

- **Insight Control パフォーマンス管理のオンライン/オフラインステータスおよびストレージコンポーネントのグラフの値が「0」に変わっている**

`isWindows()` メソッドは、ノードが Windows ノードであるか、Linux ノードであるかを確認し、`windowsOsType.properties` ファイル内に存在していない `cpqHoOsType` のすべての整数値に対して `false` を返します。以後のデータ収集を試みた場合、Windows

ノードであっても、ゼロの値を返すことによって、Linux Oid についてデフォルトのデータ収集が試みられます。

推奨処置

詳しくは、<http://www.hpe.com/jp/insightcontrol> にある『HP Insight Control パフォーマンス管理ユーザーガイド』のトラブルシューティングの項に記載されている手順に従ってください。

- **ストレージコントローラー名が、Insight Control パフォーマンス管理のオンライン/オフライン分析ページに表示されない**

MIB が `controllercard.properties` ファイルに存在する ID 以外のコントローラー ID を返したときに必ず、このエラーが発生します。これは、カードが新しいので MIB が新しい整数値を返しているため、またはコントローラーカード名が `controller.properties` ファイルに存在しないためです。

推奨処置

コントローラー名は、`controllerCard.properties` ファイルのコントローラー ID とともに追加する必要があります。詳しくは、<http://www.hpe.com/jp/insightcontrol> にある『HP Insight Control パフォーマンス管理ユーザーガイド』のトラブルシューティングの項に記載されている手順に従ってください。

重要な問題

- **[オンライン/オフライン分析] ページで、ストレージコンポーネントのステータスカウンターの値が「0」と表示される**

Windows OS のみの構成の場合、Insight Control パフォーマンス管理の [オンライン/オフライン分析] ページの右側のペインにあるストレージコンポーネントのステータス値が、Danelectro シリーズのコントローラーに対して 0 と表示されます。

- **一部の監視対象サーバーが自動的に監視を停止する**

非アクティブな状態が長時間続くと、**[監視管理]** ページ内の一部のサーバーのステータス監視が停止することがあります。この動作は、スケラビリティ環境で断続的に観測されます。

推奨処置

[監視管理] ページから、監視を停止したサーバーを選択し、**[適用]** をクリックして選択したサーバーを監視します。

- **[オフライン分析] ページで、ネットワーク、ストレージ、およびホストバスサブシステムのステータスカウンターの値が「0」と表示される**

オフライン分析では、サーバーの連続的なパフォーマンスを再生し、監視するために、サーバーのパフォーマンスと構成データがデータベースから取り出されます。オフライン分析では、ステータステーブルとステータスタブに、ネットワーク、ストレージ、およびホストバスサブシステムのカウンターの値が「0」と表示されます。[オンライン分析] ページでは、値が表示され、データがデータベースから使用できます。

軽度な問題

- **ICPM のリストに管理対象サーバーが複数回表示される**

Insight Control のホームページまたは、Systems Insight Manager のホームページからノードを削除すると、デバイスキーが SIM データベースから削除されます。ただし、デバイスキーは IC Perf テーブルには引き続き存在しています。

これは、IC Perf には SIM とは別のデータベースがあり、両方のテーブルから同時にエントリーを削除する機能がないためです。

この場合、同じノードの再検出を試みると、SIMによって新しいデバイスキーが与えられ、同じデバイスキーが IC Perf データベースにコピーされます。このため、同じノードに2つの異なるデバイスキーが存在することになり、**[監視管理]**ページに複数のエントリーが表示されます。

推奨処置

[Systems Insight Manager ホーム]ページからノードを削除する場合は、対応するデバイスキーのエントリーを IC Perf データベースの PMP_Discovered_Servers テーブルおよび PMP_Monitored_Servers テーブルから削除するようにします。

- **MIB walker が 10Gb 2 ポート 560 FLB アダプター用の正しい NIC 名を表示しない**

MIB walker は、10Gb 2 ポート 560 FLB アダプター用の正しい NIC 名を表示しません。

推奨処置

現時点では、既知の回避策はありません。

- **ProLiant SL250s Gen8 と ProLiant DL360p Gen8 のインベントリに、IPv4 アドレスが表示されない**

ProLiant SL250s Gen8 と ProLiant DL360p Gen8 では、インベントリに IPv4 アドレスが表示されません。

- **一部の PCI デバイスについて、カウンターが表示されない**

一部の PCI デバイスについて、パフォーマンスカウンターは表示されません。

- **一部の NIC アダプター（たとえば、NC7782 および NC7170）について、オンライン分析ですべてのネットワークポートが無効または未設定と表示される**

Windows で Microsoft Hyper-V テクノロジーを実行するサーバーで設定されているとき、または Linux でブリッジとして設定されているとき、一部のネットワークアダプターについてオンライン分析でネットワークポートが無効または未設定と表示される場合があります。

- **NIC チーミングタイプおよび関連ポートの詳細が表示されない**

ネットワークアダプターは、フェイルオーバーを処理するために、異なる NIC チーミングタイプで設定できます。また、IP アドレスは、チーミングされた NIC 上で構成されます。パフォーマンス管理は、**[オンライン分析]** ページの **[インベントリ]** タブに、設定された NIC チーミングタイプ、関連ポート、または詳細を表示しません。

- **新バージョンの Insight Control にアップグレードすると、HP Insight Control パフォーマンス管理で管理対象 VM ホストサーバーの PF 欄に **[クリティカル/不明]** アイコンが表示される**

新バージョンの Insight Control にアップグレードすると、VM ホストサーバーの PF 欄に **[クリティカル/不明]** アイコンが表示されます。ただし、VM ホストサーバーはアップグレード後に Insight Control 仮想マシン管理で再登録され、管理されます。

推奨処置

次の手順を実行します。

1. VM ホストサーバーを選択します。
2. Systems Insight Manager のページで **[システムの識別]** タスクを実行します。

- **NIC サブシステムの **[メジャー]** または **[マイナー]** パフォーマンス状態（アイコン）が、サーバーに、または PF 欄に反映されない**

サーバー上のネットワークコンポーネントに負荷がかかると、**[オンライン分析]** ページでネットワークサブシステム/NIC アダプター/NIC ポートコンポーネントに **[マイナー]** または **[メジャー]** 状態アイコンが表示されます。ただし、統合されたステータスは、オンライ

ン分析のサーバーモデルステータスまたは Systems Insight Manager の [すべてのシステム] ページの PF (パフォーマンス状態) アイコンに伝達しません。

- **[オフライン分析] ページで [前のボトルネックへ] または [次のボトルネックへ] ボタンをクリックしても、サーバー構成ツリー内のステータスが変化しない**

システムのサブシステムコンポーネントステータスおよびカウンターの値は、再生用にデータベースに記録されます。ボトルネック状態にある [前のボトルネックへ] および [次のボトルネックへ] ボタンをクリックすると、[オフライン分析] ページにシステムがマイナーまたはメジャー状態にあったときのデータが表示されます。ステータスアイコンと分析説明メッセージは、カウンターテーブルにリストされている値でステータスタブに正しい情報を表示します。ただし、同じコンポーネントについて、サーバー構成ツリーに正常ステータスアイコンが表示されます。

- **サーバーの監視を初めて起動した後で、[監視管理] ページがハングする**

サーバーの監視を初めて起動した後で、[監視管理] ページがハングする場合があります。

推奨処置

HP Systems Insight Manager サービスを再起動します。

- **HP ProLiant ML 350p Gen8 および ProLiant DL360p Gen8 Linux ノードのストレージサブシステム値で、[オンライン分析] のステータスカウンターに「0」の値が表示される**

HP ProLiant ML 350p Gen8 および ProLiant DL360p Gen8 Linux ノードにはアレイコントローラステータスカウンターの値が表示されますが、ストレージサブシステムでは、オンライン分析のステータスカウンターに「0」の値が表示されます。

Insight managed system setup wizard

制限事項

- **権限昇格ツールがパスワードを要求する方式の権限昇格設定がサポートされない**

Insight managed system setup wizard がサポートする権限昇格機能は、権限昇格ツール (su、sudo コマンドなど) がパスワードを要求しないように設定されている CMS 上でのみ有効です。権限の昇格がオンになっており、パスワードが要求されるときに機能を設定しようとする、ウィザードの実行出力に失敗のメッセージが現れる場合があります。

推奨処置

権限昇格のパスワード要求が原因で機能が正しく設定されない場合は、managed system setup wizard の外部で機能を設定します。

パスワード要件をオフにするには、HP SIM の[オプション]→[セキュリティ]→[権限の昇格]を使用し、「この権限の昇格用のツールはパスワードを要求します。」チェックボックスをオフにします。なお、この構成変更を反映するには、CMS で管理されるシステムを再設定する必要があります。

- **HP iLO 3 のサポート**

Insight managed system setup wizard の現在のリリースでは HP iLO 3 がサポートされません。ただし、ProLiant 用 HP iLO 3 には、ファームウェアバージョン 1.05 以上が必要です。

推奨処置

HP iLO 3 ProLiant ファームウェアをバージョン 1.05 以降に更新してください。

- **Insight managed system setup wizard が HP Integrity rx2620 を設定しない**

このリリースでは、Insight managed system setup wizard を使用した HP Integrity rx2620 サーバーの構成はサポートされていません。

推奨処置

手動で HP Integrity rx2620 を設定してください。

重要な問題

- **Integrity VM4.1 以上および 11.31 HA-OE または DC-OE を実行する Integrity VM ホストを登録するためにパッチが必要である**

Insight managed system setup wizard は、Integrity VM4.1 以上および 11.31 High Availability Operating Environment (HA-OE) または 11.31 Data Center Operating Environment (DC-OE) を実行する Integrity VM ホストを登録できません。

推奨処置

HP-UX 11iv3 Integrity VM ホストにパッチ PHSS_40784 を適用します。パッチは、Serviceguard がインストールされているが、Serviceguard クラスターに含まれていないシステムに必要です。Serviceguard は、HP-UX 11i v3 HA-OE および DC-OE に付属しています。このパッチは <https://hpsc-itgperf2-hpp.houston.hp.com/portal/site/hpsc/public/> からダウンロードできます。パッチをダウンロードするには、**[検索: HP サポートセンター]** でパッチ番号を入力して検索します。

注記: OS のバージョンおよびパッチの更新日付に基づいて、必要なパッチをダウンロードできます。

2 ドキュメントに関する注意事項

この章では、次の一部またはすべてに関する情報を示します。

- 補足情報
この項では、このリリースでは改訂されていないドキュメントの更新情報が提供されません。この情報は、将来のドキュメントのリビジョンに含まれます。
- 訂正情報
この項では、このリリースでは改訂されていない HP Insight Control のドキュメントで更新する必要がある特定の不正確な記述を明らかにする情報が提供されます。この情報は、将来のドキュメントのリビジョンに含まれます。

補足情報

このリリースの補足情報は次のとおりです。

HP Insight Control 仮想マシン管理オンラインヘルプ

Microsoft Windows Server 2008 R2 Hyper-V および Microsoft Windows Server 2012 Hyper-V の場合、Microsoft Windows Server 2012 R2 Hyper-V のサポートもこのリリースで追加されます。そのため、オンラインヘルプ内で「Microsoft Windows servers」と書いてある部分は、Microsoft Windows Server 2008 R2 Hyper-V、Microsoft Windows Server 2012 Hyper-V、Microsoft Windows Server 1022 R2 Hyper-V にも該当します。

3 サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトを訪問してください。
<http://www.hpe.com/assistance>
- ドキュメントやサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトを訪問してください。
<http://www.hpe.com/support/hpesc>

収集する情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、およびシリアル番号
- オペレーティングシステムの名前およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートとログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品には、製品インターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムがあります。ご使用の製品のドキュメントを確認して推奨されるソフトウェアのアップデート方法を確認してください。
 - 製品アップデートをダウンロードするには、次のいずれかにアクセスします。
 - Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[メールニュース配信登録]** ページ：
<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>
 - Software Depot の Web サイト：
<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>
 - お客様の利用権限を確認および更新して、契約および保証をプロファイルにリンクするには、次に示す Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[More Information on Access to Support Materials]** ページにアクセスします：
<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>
-
- ① **重要:** Hewlett Packard Enterprise サポートセンターを經由して一部のアップデートにアクセスするときに、製品資格が必要となる場合があります。関連する資格を使って HP パサポートをセットアップしておいてください。
-

Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/enterprise/docs
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	http://www.hpe.com/support/hpesc
Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide	http://www.hpe.com/assistance
サブスクリプションサービス/サポートアラート	http://www.hpe.com/support/e-updates-ja
Software Depot	http://www.hpe.com/support/softwaredepot
カスタマーセルフリペア	http://www.hpe.com/support/selfrepair
Insight Remote Support	http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs
Serviceguard Solutions for HP-UX	http://www.hpe.com/info/hpux-serviceguard-docs
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリックス	http://www.hpe.com/storage/spock (英語)
ストレージに関するホワイトペーパーおよび分析レポート	http://www.hpe.com/storage/whitepapers

カスタマーセルフリペア

Hewlett Packard Enterprise のカスタマーセルフリペア (CSR) プログラムは、お客様自身が製品の修理を行えるようサポートするサービスです。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。ただし、一部の部品は、CSR が適用されません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

デバイスサポートについて詳しくは、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>